

# Santen



## 一步「跳」ねる。

### 広範囲抗菌点眼剤

薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんにより使用すること）

## クラビット®点眼液

Cravit® ophthalmic solution  
レボフロキサシン点眼液

●禁忌（次の患者には投与しないこと）

本剤の成分、オフロキサシン及びキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】〈適応菌種〉 本剤に感性的ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌属、腸球菌属、ミクロコッカス属、モラクセラ属、コリネバクテリウム属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、ヘモフィルス・エジプテウス（コッホ・ウィークス菌）、シュードモナス属、緑膿菌、ステプトロホモナス（ザントモナス）・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌 〈適応症〉 眼瞼炎、涙嚢炎、麦粒腫、結膜炎、睑板腺炎、角膜炎（角膜潰瘍を含む）、眼科手術期の無菌化療法

【用法・用量】 通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉 1.本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。 2.本剤におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）に対する有効性は証明されていないので、MRSAによる感染症が明らかであり、臨床症状の改善が認められない場合、速やかに抗MRSA作用の強い薬剤を投与すること。

### 【使用上の注意】

1.副作用 承認時 総症例472例中、副作用が認められたのは8例（1.69%）であった。主な副作用は眼刺激感4件（0.85%）、眼そう痒感3件（0.64%）等であった。

使用成績調査（第7回安全性定期報告時） 総症例6,136例中、副作用が認められたのは42例（0.68%）であった。主な副作用はびまん性表層角膜炎等の角膜障害12件（0.20%）、眼瞼炎等9件（0.15%）、眼刺激感6件（0.10%）等であった。

- 1) 重大な副作用（まれに：0.1%未満、ときに：0.1～5%未満、副詞なし：5%以上又は頻度不明）  
ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状を起すことがあるので、観察を十分に行い、紅斑、発疹、呼吸困難、血圧低下、眼瞼浮腫等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 2) その他の副作用 副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

種類	頻度	頻度不明	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症	発疹		眼瞼炎（眼瞼発赤・浮腫等）、眼瞼皮膚炎、そう痒感	蕁麻疹
眼	—		刺激感、びまん性表層角膜炎等の角膜障害	結膜炎（結膜充血・浮腫等）、眼痛

2.妊婦、産婦、授乳婦等への投与 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔妊娠中の投与に関する安全性は確立していない〕

3.適用上の注意 1)投与経路：点眼用（のみ）使用すること。2)投与時：薬液汚染防止のため、点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意するよう指導すること。

●詳細は添付文書をご参照下さい。

製造販売元 **S** 参天製薬株式会社  
大阪市東淀川区下新庄3-9-19  
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

提携 **1** 第一製薬株式会社  
東京都中央区日本橋3-14-10

2005年4月作成  
CV05085f

# 第36号

## 栃木県眼科医会報

### 特集

2006年6月発行  
栃木県眼科医会

# 栃木県眼科医会報 (第36号) 目 次

**巻頭言** 稲葉光治会長のあとを引き継いで .....宮下 浩 ..... 1

**学 術**

第51回栃木県眼科集談会

特別講演「加齢黄斑変性の診断と治療」.....飯田 知弘 ..... 2

一般講演抄録 ..... 3

第34回栃木県眼科医会研究会

シリコンハイドロゲルレンズの最新臨床評価 .....糸井 素純 ..... 6

加齢黄斑変性の最新の診断と治療 .....湯澤美都子 ..... 7

第16回下野眼科談話会

白内障手術、現在の到達点と近未来 .....大木孝太郎 ..... 8

第13回栃木眼科セミナー

角膜再生医療 .....天野 史郎 ..... 9

第11回栃木県眼科手術談話会報告 .....上田 昌弘 .....10

**報 告**

獨協医大教授退任にあたって .....小原 喜隆 .....12

小原喜隆教授送別の辞 .....稲葉 光治 .....13

獨協医大小原喜隆教授退任祝賀会報告 .....松島 博之 .....14

獨協医大教授就任挨拶 .....妹尾 正 .....15

獨協医大妹尾正教授就任祝賀会の報告 .....松島 博之 .....17

平成18年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会 .....宮下 浩 .....18

日眼医代議員会総務常任委員会 .....宮下 浩 .....22

医療対策から .....旭 英幸 .....25

関プロ連絡協議会 (平成17年度第2回).....稲葉 光治 .....26

平成18年度栃眼医総会開催報告 .....29

平成17年度栃眼医会務報告 .....31

平成17年度栃眼医決算報告 .....36

平成18年度栃眼医事業計画 .....38

平成18年度栃眼医予算案 .....40

会長退任挨拶 .....稲葉 光治 .....42

第43回関東甲信越眼科学会準備委員会開催報告 (第2回、第3回).....原 裕 .....43

保険審査員より .....千葉 桂三 .....47

平成17年度栃眼医忘年会開催報告 .....松島 雄二 .....48

関プロ会報編集委員会報告 .....城山 力一 .....49

第63回 栃眼医親睦ゴルフコンペ .....茨木 信博 .....50

第64回 栃眼医親睦ゴルフコンペ .....田口 太郎 .....51

随 筆 .....亀卦川みどり .....52

自治医大の近況 .....青木 真祐 .....53

新規開業ご挨拶 .....金子 禮子 .....54

新入会員自己紹介 .....稲葉 全郎、国松 志保、横山 真介 .....54

お知らせ

平成18年度 医療機器販売業の管理者に対する継続研修 .....56

日眼医デジタル通信の転送を希望される方へ .....56

ASCRSで松島博之先生が受賞 .....56

ASCRSのBest Presentation of Sessionを受賞して .....松島 博之 .....57

会務日誌 .....58

会員消息 .....60

編集後記 .....城山 力一 .....62



**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**  
 本剤の成分又はキノロン系抗菌剤に対し過敏症の既往歴のある患者

**■ 効能・効果**  
 (適応菌種) ガチフロキサシンに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、モラクセラ(ブランハメラ)・カタラーリス、コリネバクテリウム属、シトロバクター属、クレブシエラ属、セラチア属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌、シュードモナス属、緑膿菌、スフィンゴモナス・パウチモビリス、ステノトロホモナス(ザントモナス)・マルトフィリア、アシネトバクター属、アクネ菌  
 (適応症) 眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)、眼科周術期の無菌化療法

**■ 用法・用量**  
 [眼瞼炎、涙囊炎、麦粒腫、結膜炎、瞼板腺炎、角膜炎(角膜潰瘍を含む)] 通常、1回1滴、1日3回点眼する。なお、症状により適宜増減する。  
 [眼科周術期の無菌化療法] 通常、手術前は1回1滴、1日5回、手術後は1回1滴、1日3回点眼する。

**用法・用量に関連する使用上の注意**  
 本剤の使用にあたっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最少限の期間の投与にとどめること。

**■ 使用上の注意**

1. 副作用 承認時及び小児等(1~11歳)対象の臨床試験での総症例429例中25例(5.83%)に副作用が認められた。副作用内容は、刺激感12件(2.80%)、痒痒感6件(1.40%)、霧視2件(0.47%)、蕁麻疹1件(0.23%)、鼻漏1件(0.23%)、点状角膜炎1件(0.23%)、虹彩炎1件(0.23%)、眼瞼炎1件(0.23%)、結膜炎1件(0.23%)、結膜出血1件(0.23%)、流涙1件(0.23%)であった[承認時及び小児等(1~11歳)対象の臨床試験終了時]。  
 (1) **重大な副作用** 経口剤で、**ショック、アナフィラキシー様症状**(頻度不明)があらわれるとの報告があるので、観察を十分に行い、紅斑、発疹、呼吸困難、血圧低下、眼瞼浮腫等の症状が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。  
 (2) **その他の副作用** 副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	0.1~5%未満
過敏症	蕁麻疹
眼	刺激感、痒痒感、霧視、点状角膜炎、虹彩炎、眼瞼炎、結膜炎、結膜出血、流涙
呼吸器	鼻漏

2. **妊婦、産婦、授乳婦等への投与** 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳中の婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中及び授乳中の投与に関する安全性は確立していない。] 3. **小児等への投与** 低出生体重児、新生児又は乳児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。  
 4. **適用上の注意** (1) **投与経路**：点眼用のみ使用すること。(2) **投与时**：1)点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意すること。2)本剤の点眼により、本剤成分による苦味を感じることもある(点眼後、本剤が鼻涙管を経て、口中に入ることによる)。

2005年6月添付文書改訂



広範囲抗菌点眼剤

指定医薬品 処方せん医薬品<sup>(注)</sup>

## ガチフロ® 0.3%点眼液

GATIFLO® 0.3% OPHTHALMIC SOLUTION

ガチフロキサシン点眼液

略号：GFLX  
薬価基準収載

※使用に際しては、警告・禁忌を含む使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。 資料請求先：千寿製薬(株)学術情報部

製造販売元 千寿製薬株式会社 販売 武田薬品工業株式会社 提携 杏林製薬株式会社  
 大阪市中央区平野町二丁目5番8号 大阪市中央区道修町四丁目1番1号 東京都千代田区神田駿河台2-5



## 稲葉光治会長のあとを引き継いで

会 長 宮 下 浩 (宇都宮市)

稲葉会長先生には3年間栃木県眼科医会のために職務に精励され、本当にありがとうございました。そして本当にご苦労さまでした。あと1年間の任期がありますが稲葉会長の健康が優れないことと、平成19年の関プロ開催に備えて関プロ学会直前に会長が交代するよりも本年、医会のことを熟慮された上で会長を辞任したいと申し出られました。4月23日の栃木県眼科医会総会で宮下が会長の重責を引き継ぐことになり身の引き締まる思いであります。元々会長などの器でないことは、本人がよく自覚していますので、優秀な理事の先生方に支えて頂きながら、精一杯職務を果たしていきたいと存じます。会員の各先生方に置かれましても何とぞご協力賜りますようお願い申し上げます。稲葉先生には当会の顧問として今後ともご指導を頂きます。

来年の平成19年6月30日と7月1日には第43回関東甲信越眼科学会、ブロック講習会、眼科医療従事者講習会の開催県となっております。なんとしても成功させたいと思いますのでご協力のほどお願い致します。今後の医療問題、健康保険の問題にもからんで眼科医療を取り巻く環境も難しい状況ばかりです。今回の保険改正についても我々には、厳しいものでした。

今回は、厚労省主導により、コンタクト診療所

の問題に行政が大ナタを振るわないで放置するのは行政の怠慢だと言われると局長の強い決意で決まったと聞かされた。また施設基準がコンタクトレンズの診療が70%以上の場合がコンタクト診療所と判断することに決まったが、これも厚労省が一方的に決めてきたことである。厚労省がデータを持っているのだが70%以上で申請する診療所が何件あるのか疑問である。今回の改正が、我々眼科医の血を流しただけで机上の空論に終わるようなことにならないよう祈るばかりである。今後、注意深く監視をしていかなければならないと思います。また、思うような実効が上がりなければさらに厳しい対応になると聞かされました。

コンタクト診察料設定は、かなり包括され低点数を提示されたが「適正な医療を行っている」日眼医会員に迷惑がかからないように、三宅会長先生、伊藤副会長先生がねばり強く交渉された。今後、厚労省と引き続き交渉を重ねていくとのことですので、会員の皆様が、診療上納得できないことや疑問のあることを日眼医に上げて直接厚労省と協議をして頂くようにしていきたいと思っていますので、どうぞご意見を頂きますようお願い致します。栃木県眼科医会が発展していきますよう重ねて皆様のご協力のほどお願い申し上げます。

## 第51回栃木県眼科集談会

平成18年4月23日(日)

於：自治医大研修センター中講堂



特別講演

### 加齢黄斑変性の診断と治療

福島県立医科大学医学部 眼科学講座 教授 飯田 知弘

滲出型加齢黄斑変性は現在眼科領域で最もホットな疾患の一つである。それは、高度の視力障害を生じる本疾患がわが国でも増加傾向にあることに加え、発症機序の解明が急速に進んだこと、診断能力と治療法が飛躍的に進歩したことによる。本講演では、日常診療に直結する診断と治療について概説していきたい。

#### 1) 診断

従来は主に眼底検査とフルオレセイン蛍光造影で診断が行われていたが、最近ではインドシアニングリーン蛍光造影や光干渉断層計を併用することで、より精度の高い診断が行えるようになってきた。その結果として、従来は単に滲出型加齢黄斑変性として一括して扱われていたものの中に、ポリープ状脈絡膜血管症(PCV)や網膜血管腫状増殖(RAP)という特殊な新生血管を持つ病型が存在することがわかってきた。PCVとRAPはそれぞれ特徴的な臨床所見を持ち、臨床経過や予後が異なることから、正確に診断して治療方

針を考えていく必要がある。

#### 2) 治療

中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性に対しては、これまでにもさまざまな治療が試みられてきたが、有効性、安全性の面から十分に満足できるものとはいえなかった。しかし、2004年5月から光線力学的療法(PDT)が認可されたことから、加齢黄斑変性の治療は大きく変わった。PDTは、認可後は急速に普及して、現時点で約160施設、約8000例に対して実施されている。わが国における臨床試験の結果が、欧米における臨床試験よりも視力予後が良かったことから、日本人では欧米人よりも良好な効果が得られることが期待される。当科でも認可直後からPDTを導入して多数例を治療してきた。まだ短期間の経験ではあるが、これまでPDTを行った症例を呈示しながらPDTの現状をみていき、さらにはPDT実施施設への紹介のタイミングについても考えていきたい。

## 一般講演抄録

### 1. 結膜炎症状で発症した癩痕性類天疱瘡の1例

自治医科大学眼科○石 崎 こずえ

小 幡 博 人

竹 澤 美貴子

猪 木 多永子

茨 木 信 博

水 流 忠 彦

おおくぼ眼科 大久保 好 子

大久保 彰

自治医科大学皮膚科 河 田 真 子

症例は48歳女性。平成17年2月頃より両眼の充血、流涙、眼脂が出現。市販の点眼薬を使用しても改善しないため、5月31日近医受診。結膜炎として抗菌剤の点眼・内服を使用するも眼脂は改善せず、瞼球癒着が出現したため、8月24日当科紹介となる。眼類天疱瘡などの非感染性結膜炎を考え、ステロイド点眼を開始したが、瞼球癒着や下方結膜囊の短縮が徐々に進行した。口腔粘膜にびらんが見つかり、皮膚科で皮膚と口腔粘膜の生検を施行したところ、蛍光抗体法でIgG、IgA、C3が基底膜に陽性という所見がえられ、癩痕性類天疱瘡と確定診断された。プレドニゾロン60mgの内服やシクロスポリン3mg/kg/dayの併用でも症状の改善をみず、パルス療法を施行したところ改善をみた。癩痕性類天疱瘡の急性期は結膜炎に類似した症状を呈するため、抗菌剤に反応せず瞼球癒着を伴う症例は、癩痕性類天疱瘡を念頭に置くことが大切である。

### 2. 小切開白内障手術における角膜切開と強角膜切開の特徴

獨協医科大学○青 瀬 雅 資

松 島 博 之

野 堀 秀 穂

妹 尾 正

小 原 喜 隆

【目的】角膜切開と強角膜切開の切開創の相違を比較検討した。

【対象および方法】対象は当院でPEA+IOLを施行された24例30眼、平均年齢71.8±6.0歳で、切開

法により角膜群と強角膜群に分け、インナーゲージを用いて切開創を測定した。また、実験的に豚眼を用い、角膜および強角膜切開を作成して切開創の形状比較をした。同時に2.8mmの角膜および強膜の穿孔創を作成し、組織伸展率を比較検討した。

【結果】切開創の大きさは、角膜切開で2.8±0.04mm、強角膜切開では角膜穿孔部位で2.8±0.17mm、強角膜トンネル部位で3.1±0.18mmであった。実験的にも同様の結果を得た。組織伸展率は角膜で0.9±2.6%、強膜で約6.7±2.9%であった。

【結論】強角膜切開は角膜切開に比べ強角膜トンネル部位が大きくなり、強膜の組織伸展性が高い。眼内レンズ挿入時の必要切開創幅が切開部位によって異なっている。

### 3. 脈絡膜腫瘍様に発症し、夕焼け状眼底を呈した原田病と考えられる1例

自治医科大学眼科○橋 本 尚 子

牧 野 伸 二

脈絡膜腫瘍様に発症した原田病と考えられた1症例を経験した。47歳女性、左眼耳下側に灰白色隆起性病変がありその辺縁に網脈絡膜皺壁を認めた。2週間後には右眼耳側にも限局性灰白色病巣が出現、左眼の病巣はびまん性に拡大した。蛍光眼底造影検査(FA)では病変部の点状過螢光を認め、転移性脈絡膜腫瘍を疑い全身検査を施行したが、悪性所見は確認できなかった。その後、軽度前房内炎症が両眼に出現、右眼眼底には脈絡膜剥離が出現したため再度FAを施行、原田病に特徴的な後期の色素貯留は認めなかったが早期の充盈遅延を認めた。HLADR4陽性を認めたが自覚症状を含め、神経内科、耳鼻科ともに原田病を疑う所見は確認されなかった。しかし今までの所見と経過より非典型的な原田病と考えてステロイドパルス療法を施行、治療後視力は両眼(1.2)となった。その後病変部を中心とした夕焼け状眼底を呈するようになり、非典型的な原田病と考えた。

### 4. 眼窩壁骨折の手術時期

獨協医科大学眼科○澤 野 宗 顕

松 島 博 之

妹尾正

**目的：**眼窩壁骨折は手術までの期間は教科書的には2週間までといわれているが術後経過には差が見られる。眼球運動の改善が骨折タイプ、手術までの時期により異なるか検討した。

**対象と方法：**対象は当院で手術を施行し術後1年以上経過観察可能であった症例16例16眼、平均年齢23.6歳。眼球運動の経過観察はHessチャートの一次偏位面積の経時的变化を画像解析ソフトで解析し行った。

**結果：**Trap door type、Bone defect typeは手術までの時期の違いで術後結果には殆ど差が見られなかった。一方、筋絞厄のある線状骨折では早期手術が可能であった症例は改善が得られていたが、時間の経過した症例では十分な改善が得られていなかった。

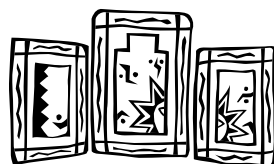
**結論：**Trap door type、Bone defect typeでは手術時期は術後結果に大きな影響を与えていない。一方、筋絞厄のある線状骨折は緊急手術の適応である。

### 5. 自治医大眼科におけるロービジョンケア

自治医科大学○国松志保

**目的：**自治医大眼科では、平成18年4月にロービジョン（LV）外来を開設した。当科におけるロービジョンケアについて報告する。

**外来の流れ：**医師による詳しい問診（Sumiらの問診表、NEIVFQ25）を行い、患者のニーズを把握する。視力・読み速度を測定し、症例に応じて、各種補装具を選定し、拡大読書器の使用方法を説明する。必要に応じて便利グッズの紹介や、更生施設の案内を行う。通院治療と同時進行で、ニーズにあわせたロービジョンケアを行う予定である。



**設備：**

手持ち式ルーペ 卓上型ルーペ	エッセンバツハ（携帯用ライト付3、4、5、7倍、ブラックルーペ3、4、5、6倍）、ニコン（ポケットルーペ3、4、5倍）、おんでこ（クリスタルビュー）、コイル（モバイルルーペライト付7、9、11倍）
単眼鏡	ナイツ（4、6倍）
拡大読書器	ナイツ（VS-1500AF）、タイムズ（AV-100）
遮光眼鏡	東海光学（CCP、CCP400）
疑似体験セット	
日常生活用具、便利グッズ	白杖、音声時計、調理道具（白黒反転まな板など）、爪やすり、タイポスコープ
各種パンフレット	塩原視力障害センター、タートルの会など

### 6. LI後の水疱性角膜症に対するPKP術後成績

獨協医科大学眼科○大沼修

池田恵理

寺田理

妹尾正

千葉桂三

小原喜隆

**目的：**アルゴンレーザー虹彩切開術（以下LI）による水疱性角膜症（以下BK）に対して施行した全層角膜移植術（以下PKP）の術後成績について検討した。

**結果：**LI後のBKは女性に多く（87%）、LI後BK発症まで約102ヶ月（約8年）要した。術式の90%はPKPと白内障同時手術で、術後拒絶反応は3眼（30%）で認めたが、移植片の透明治癒率は術後24ヶ月で90%であった。術後24ヶ月の角膜内皮細胞密度はLI群（拒絶反応を生じた3例を除いた7例7眼）でコントロール群（術後拒絶反応等の合併症が無いBK15例15眼）に比べ有意に少ない結果となった。

**結論：**LI施行眼は、移植後も長期的には角膜内皮細胞密度数が他の水疱性角膜症より減少しや

すく、移植後でも角膜内皮を障害する何らかの因子がある可能性が否定できない。

### 7. 座位眼圧に臥位上昇分を加算した仮再構成眼圧目内変動の評価

原眼科病院○原岳

原孜

原玲子

成田正弥

原たか子

**目的：**座位のみで測定された眼圧日内変動に臥位上昇分を加算した模擬再構成日内変動と、実測された再構成眼圧日内変動との一致性を検討する。

**方法：**対象は、当院で座位および臥位にて眼圧日内変動測定を行った原発開放隅角緑内障（広義）のうち、緑内障治療薬未使用または無治療で測定が行われていた160例160眼。既報（05日眼、05臨眼）に従った座位および臥位の眼圧日内変

を測定した。診療時間にあたる10時、12時、14時、16時の座位から臥位への上昇分を算出し、就寝時間に当たる22時、24時、3時、6時の座位眼圧に上昇分を加算し、模擬臥位眼圧を算出した。就寝時間帯の模擬臥位眼圧と実際に測定された臥位眼圧とを比較した。（paired-t test、有意水準P<0.01）

**結果：**10時の眼圧上昇は2.1±2.7mmHg、12時は1.7±2.4mmHg、14時は1.9±2.6mmHg、16時は1.7±2.4mmHgだった。座位の22時は13.0±2.7mmHg、0時は12.9±3.3mmHg、3時は13.2±3.5mmHg、6時は13.7±3.3mmHgであった。各測定時刻の模擬臥位眼圧と実測された臥位眼圧の間に有意な差はみられなかった。

**結論：**診療時間帯の任意の同時刻に測定された座位、臥位の上昇分を、座位のみで測定した眼圧日内変動の就寝時間帯に加算した模擬再構成眼圧はある程度実測値を反映し得る。

緑内障・高眼圧症治療剤〈マレイン酸チモロール〉製剤

**リスモンI/G点眼液 0.25%・0.5%**

RYSMON<sup>®</sup> I/G OPHTHALMIC SOLUTION

指定医薬品

薬価基準収載

本剤の「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細につきましては製品添付文書をご参照下さい。

製造販売元 **わかもと製薬株式会社**

〒103-8330 東京都中央区日本橋室町1丁目5番3号

※資料請求先 わかもと製薬株式会社 学術部

2005.5.K

## 第34回栃木県眼科医会研究会

平成18年1月13日(金)  
於：宇都宮グランドホテル



### シリコンハイドロゲルレンズの最新臨床評価

糸井眼科医院院長 糸井 素純

シリコンハイドロゲル素材からなるコンタクトレンズが臨床で使用することが可能となった。すでに海外ではシリコンハイドロゲルレンズが臨床で使用され、30日間の連続装用からドライアイおよび治療用レンズとしての使用例など種々の報告がされている。今回、我々は8医療機関で共通の試験実施要綱を作成しO<sub>2</sub>オプティクス<sup>®</sup>の3ヶ月間の評価試験を実施した。その結果、高酸素透過性レンズに変更することにより角膜輪部の血管拡張が有意に減少すること

が確認できた。また、自覚的な乾燥感の程度と出現頻度も減少することが判明した。一方、シリコンハイドロゲル素材に出現すると報告されているSEAL、ムチンボールについても注目をして観察したが、その出現頻度は海外で報告されているものと比較して非常に少ないものであった。これは、連続装用と終日装用の違いによるものかもしれません。本セミナーでは、O<sub>2</sub>オプティクス<sup>®</sup>を快適に装用させるためのコツを臨床評価試験の結果と処方経験を解説する。



### 加齢黄斑変性の最新の診断と治療

日本大学医学部 教授 湯澤 美都子

加齢黄斑変性 (AMD) は米国における中途失明原因の第一位を占め、日本でも増加傾向にある。本症は滲出型と萎縮型に分類されるが、現時点で治療の対象となるのは滲出型である。滲出型の日常診療ではいくつかの黄斑所見を見逃さないことが重要であり、診断のポイントとなる検眼鏡所見を実際の症例で解説する。診断において最も重要なポイントは蛍光眼底造影検査で脈絡膜新生血管を正確に同定することである。フルオレセイン蛍光眼底造影、インドシアニングリーン蛍光眼底造影それぞれの長所と短所、それぞれの診断上の留意点を述べるとともに、ポリープ状脈絡膜血管症

(PCV) や網膜内血管腫状増殖 (RAP) との鑑別のポイントを述べる。加齢黄斑変性の治療は、脈絡膜新生血管が中心窩に達していなければレーザー光凝固が行われる。中心窩に達していれば経瞳孔温熱療法 (TTT)、放射線療法、新生血管除去術などの手術療法、光線力学療法 (PDT)、ステロイド剤や抗新生血管剤の局所投与など様々なものがあるが、最近PDTが第一選択になっているので、PDTの適応となる病態や長所・短所を解説するとともに、PDTの治療成績を示したい。



プロスタグランジンF<sub>2α</sub>誘導体  
緑内障・高眼圧症治療剤 指定医薬品、要指示医薬品\*

# キサラン<sup>®</sup>点眼液

一般名：ラタノプロスト

薬価基準収載

\*注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

■効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

Life is our life's work  
生命を守るのが私たちの使命です。

ファイザー株式会社

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
資料請求先：マーケティングサービス部

2003年8月作成

NITTEN

防腐剤無添加・マルチドーズ点眼薬

健保適用

【特許】眼科用非ステロイド性抗炎症剤

シクロスター<sup>®</sup> PF点眼液0.1%

眼・耳鼻科用合成副腎皮質ホルモン剤

リンベタPF液0.1%

【特許】アレルギー性結膜炎治療剤

クモロール<sup>®</sup> PF点眼液2%

【特許】緑内障・高眼圧症治療剤

プロキレート<sup>®</sup> PF点眼液1%・2%

※効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

【特許】 日本点眼薬研究所 【資料請求先】 株式会社 日本点眼薬研究所 学術部学術課 名古屋市南区桜本町40番地の2 〒457-0038 (2006年4月作成)

## 第16回下野眼科談話会

平成18年2月24日(金)  
於：小山グランドホテル



### 白内障手術、現在の到達点と近未来

大木眼科院長 大木 孝太郎

白内障手術は手術装置・器具と眼内レンズとが両輪となって進歩してきている。近年、PEA装置の進歩が眼内レンズのFoldable化と品質の向上を加速させてきたことは間違えない。さらに現在のPEA装置は超音波発振法に著しい進歩が見られ、より小さな切開で行われる手術が現実化してきて

いる。眼内レンズについてはより良い術後視機能を求めて付加価値眼内レンズの開発が急速に行われている。なかでも次世代の多焦点眼内レンズは術後のQOLを劇的に向上させることが予想されている。これらの白内障手術における現状とごく近い未来について私見を述べたい。

## (株) 平和医用商会

代表者 代表取締役 柳瀬 信也

本社 〒331-0825 埼玉県さいたま市北区櫛引町2-185-6  
TEL 048-664-1503 FAX 048-652-5744

【宇都宮営業所】 〒321-0901 栃木県宇都宮市平出町1319-1  
TEL 028-662-2946

【東京営業所】 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-24-702  
TEL 03-5842-3501

【高崎営業所】 〒370-0062 群馬県高崎市稲荷町32-204  
TEL 027-365-2490

### 営業案内

- 眼科用医療器械・器具・備品・眼内レンズ・消耗品全般取扱い
- 眼科光学器械の修理
- 眼科一般開業設備一式

## 第13回栃木眼科セミナー

平成18年3月10日(金)  
於：小山グランドホテル



### 「角膜再生医療」

東京大学医学部附属病院角膜移植部 天野 史郎

幸い私自身は、「自分の人生を再生させたい」と考えたことはないが、世の中では再生ばやりで、日本再生、金融制度再生、などといった言葉をよく聞く。医療の世界でも再生医療が注目を集めている。再生医療がこれまで難治とされてきた疾患を解決してくれるのではないかと期待されている。生物学で“再生”といえば、昔から、イモリやプラナリアの手足がちぎれても元に戻る“再生”現象がよく知られている。この“再生”のメカニズムを人の組織や臓器の再建治療に応用する試みが再生医療である。具体的には幹細胞、細胞外基質、調節因子などを駆使して、生体内での組織再生を促したり、研究室で人工的に組み立てた組織を利用したりする医療である。

角膜は再生医療がすでに臨床で実践されている数少ない領域の一つである。具体的には、化学・熱外傷やスティーブンス・ジョンソン症候群などの難治性として知られる瘢痕性角結膜上皮障害眼に対して、培養輪部上皮移植などの手術がすでに

臨床の場面で行われるようになってきている。輪部上皮の供給源としては、本人のもう片眼に健全な輪部が残っているのであれば、そこからごくわずかの輪部組織を採取し培養すれば、角膜全体を覆うシートを作成できる。この上皮は自己由来のものであり、術後の拒絶の心配がなく、非常に有利な移植片といえる。疾患が両眼性で自己の輪部が使用できない場合は、他人の輪部上皮を使用することになり、術後の拒絶反応抑制が必要となってくる。これを克服するために、自己の口腔粘膜上皮を羊膜上に培養したシートの有用性が検討されている。

我々の研究室では、角膜上皮層を対象とした再生医療に加えて、ヒトの角膜内皮細胞を培養して、治療に使用する試みを行ってきた。本講演では、オクラーサーフェス再生の臨床での実践に加えて、角膜内皮、角膜実質などの再生医療の可能性についてお話する予定である。

# 第11回栃木県眼科手術談話会

平成18年5月19日(金)

於：宇都宮市医師会館5階講堂

## 演 題

### 1. 偽落屑症候群の白内障手術

塩谷総合病院眼科○上 田 昌 弘

症例は82歳男性。瞳孔縁に偽落屑物質 (P E) を認め、散瞳はやや不良。水晶体核の硬度は、Emery分類でgrade 3 くらいであった。

超音波乳化吸引 (P E A) を開始し、最後の核片を吸引し終わった瞬間、水晶体囊全体がチン小帯からはずれ吸引口に引き寄せられてしまった。仕方なくA-vitによる前部硝子体切除を行い、瞳孔を正円にして手術を終了した。

約7ヶ月後、再度入院し、前房レンズの挿入を行った。

### 2. 強度近視眼の黄斑網膜分離に対する

#### 硝子体手術

伊野田眼科クリニック○伊野田 繁  
清 水 由 花

症例1は63歳男性。2ヶ月前より左眼の視力低下を自覚。眼底検査では強度近視による所見のみであったが、OCTにて黄斑部の網膜分離を認めた。手術は、P E A + I O L 施行後、硝子体切除、黄斑上膜除去 (染色なし) を行い、ケナコルト使用下での残存硝子体除去後、液-空気置換を行った。視力は、術前の (0.3) から (1.0) に改善した。

症例2は68歳女性。1年前より徐々に左眼の視力低下を自覚。眼底は強度近視による網脈絡膜萎縮のみであったが、OCTにて黄斑部の網膜分離を認めた。症例1と同様に手術を施行したが、眼内ガス消失後、黄斑裂孔による黄斑剥離を認めた。再手術は、I C G 染色下で内境界膜剥離を行い裂孔閉鎖し、網膜は復位できたが、術後視力は (0.1) にとどまった。

強度近視眼に対する硝子体手術は比較的风险の高い手術となるため、慎重に適応を決める必要がある。

### 3. 再発翼状片のリカバリー手術

獨協医科大学眼科○大 沼 修  
妹 尾 正

初発翼状片の術式のポイントは、徹底した翼状片組織の切除、移植した結膜弁をしっかり強膜へ縫合すること、治療用 S C L による再発予防 (contact inhibition)、トラニラスト点眼による瘢痕形成の抑制である。結膜弁移植のみの「1群」と、トラニラスト点眼および内服を加えた「2群」は、術後、約半数に再発を認めたが、さらに治療用 S C L を使用した「3群」では、現在のところ再発は認めていない。また、縫合技術が未熟な医師ほど再発傾向を認めたため、基本となる切開・縫合等の再教育が必要と思われた。

再発翼状片の術式は、まず、広範に存在する異常組織を徹底的に切除し、正常結膜で被覆できない範囲は羊膜移植を行い、さらに羊膜上に結膜弁を移植することで眼表面の再建を行う。最後に治療用 S C L を装着して、手術を終了する。しばしば瞼球癒着により結膜囊が短縮しているため、羊膜による結膜囊の再建も行っている。

### 4. 硝子体手術の灌流用ポート創について

たかはし眼科○高 橋 雄 二

硝子体手術の際に作製される灌流用ポート創は、術者によりいろいろなバリエーションがある。輪部と平行に作製する術者、輪部に対して垂直方向 radial に作製する術者、自己閉鎖創を作製する術者、などさまざまである。また、ポートを作る位置に関しても、症例によって、術者によって、いろいろな選択がある。このほか、ポートを固定している糸をそのまま創の閉鎖に利用して時間の短縮を図るなど、術者によって種々の工夫がなされている。

演者も、これまでいろいろな方法を試してみた

が、輪部に対してradial方向に作製すると創が鋸状縁に近づいてしまうため、現在は、輪部と平行なポート創を作製している。また、ポート創を自己閉鎖創にする方法は、灌流用カニューラが寝てしまい、水晶体や網膜をヒットする可能性が高くな

るため、あまりお勧めできない。

このほか、演者は、手術終了時に眼内のガスが創からできるだけ漏れないよう、あらかじめ創閉鎖用の糸を前置糸としてかけておく方法を行っている。

薬価基準収載

処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

網膜・硝子体疾患治療剤

ヨウ素レシチン製剤

**ヨウレチン<sup>®</sup>**

錠 100  $\mu$ g / 錠 50  $\mu$ g / 末



目はいのち

薬理特性 ヨウレチンは網膜組織の新陳代謝を亢進することが実験的に確認された。

- 1、Warburg 検圧法により網膜組織呼吸の亢進、網膜解糖系の亢進がみられた。(家兎)
- 2、網膜電図による律動様小波の振幅増大、頂点潜時短縮がみられた。(家兎)
- 3、網膜電図によるb波、c波の振幅の増大がみられた。(家兎)

臨床特性 1、長期間安定なヨウ素製剤である。 2、ヨウ素の投与量を微量に調整できる。 3、長期間投与しても副作用が少なく安全性が高い。

効能・効果 中心性網膜炎、網膜出血、硝子体出血・混濁、網膜中心静脈閉塞症  
※ 本剤には投与期間に対する制限はありません。

用法・用量 通常 ヨウ素として、10  $\mu$ g / Kg を1日2~3回に分割経口投与します。成人は1日量 300~600  $\mu$ g (ヨウレチン末として1.5 ~ 3g) を1日2~3回に分割経口投与します。  
なお年齢、症状により適宜増減します。

使用上の注意 1、次の患者には慎重に投与すること (1) 慢性甲状腺炎のある患者 (2) 治療後のバセドウ病のある患者 (3) 先天性の甲状腺ホルモン生成障害のある患者 2、副作用 副作用集計の対象となった2015例中15例 (0.74%) の副作用が認められた。内訳は以下のとおり (1) 胃腸障害9例 (0.44%) (2) 薬疹3例 (0.15%) (3) 食欲不振3例 (0.15%) 3、妊婦への投与 妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊娠中又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合のみ投与すること  
※ その他の使用上の注意については添付文書をご参照ください

① 第一薬品産業株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-14-4 資料請求先  
TEL 03-3271-6773 FAX 03-3271-0598 学術部





## 獨協医大教授退任にあたって

前獨協医科大学眼科教授 小原 喜 隆

獨協医大に赴任して22年の歳月が過ぎてしまいました。

その歳月は長いようで、あっという間に過ぎた感じがしますが、今では「やれやれ」というのが実感です。

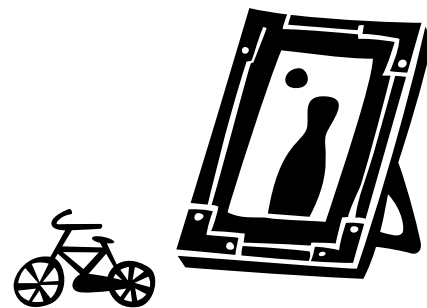
1984年、獨協医大越谷病院開設と同時に3人の同志とともに診療に夢中になったのが強く印象に残ります。筑田、門屋、波紫、そして当時内科から転向した大沢先生と5人で医局の土台作りをしっかりと行いました。土台が堅固になるほどそこには沢山の臨床成果が実りました。志を一つにしてチームワークがよければ忙しくても苦にならず、1日300人の外来と多数の手術をこなすことが出来ました。当時入局された先生方の頑張りに心から御礼を申し上げます。越谷病院に於ける12年では「信頼」の大切なことを知りました。

1996年、眼科主任教授として栃木に赴任致しま

した。急な人事であったため越谷病院の医局の先生方には多大なご迷惑をかけたことと今でも申し訳ない気持ちで一杯です。幸い筑田教授を中心にどんどん実績をあげているので頼もしく見ています。

栃木での10年間は越谷とは異なった環境でしたので、必ずしも思うように振舞うことが出来るとは言い切れない面もありました。その中で如何にして教室の診療実績および研究実績をあげるかに苦心しました。その結果、私の赴任後に入局した若者も順調に成長し、教室の中心的存在になっていることで、やがて大きなエネルギーとなることが期待されます。

なんとか退任を迎えることが出来たのもいつもご指導をいただいた埼玉県および栃木県の眼科医学会の諸先生方のお陰様と心より御礼申し上げます。



## 小原嘉隆教授への感謝のこぼ

会長 稲葉 光 治 (宇都宮市)

小原先生、研究、教育、臨床にと大きな業績を遺されての御退任おめでとうございます。

先生は眼科医会、一般診療医にも深いご理解を示され、栃眼医事会の顧問として、会の運営に御協力下さいました。栃眼医の学術集会、市民健康講座には先生自らが、又教室の先生方の御講演を賜り、会員の臨床の向上にご援助下さいました。又、学術面のみならず、栃眼医親睦の会にも教室の先生方の参加も多く、これも先生の私共への御配慮とします。眼科学会と医会との間には少々問題のあった時期もありましたが、栃木県には全くその様な事はなく、他県も羨む関係を保つ事が出来ました。

日頃、私達をお願いする患者さんの二次三次医療については、先生始め教室の優れた臨床医の御丁寧な診断、治療、更に詳細な報告を頂き、患者さん共々感謝して居ります。更に24時間体制で眼科救急患者を受け入れて下さり、私達一般眼科臨床医にとって、何より心強い支えとなっております。

先生はその温厚、誠実なお人柄から人を惹き付

ける力がありで、管理者として医局は云うに及ばず、副病院長としても手腕を発揮されました。

研究者としては、先生は特に白内障の基礎研究、臨床研究分野では国際的に先端を行かれて居ります。教室の研究、発表も数多く、先日頂いた「退職記念誌」には著書、論文464編、発表講演746回にのぼるとありました。先生の御努力、教室の先生方の小原先生への信頼、教室全体の和を強く感じました。先生の全人的医師教育の証しと云えるのは妹尾先生の次期教授就任でしょう。先生も、愛弟子が後継者となられ、さぞかし喜び安心された事と拝察致します。私共医会会員もこれにより独協眼科の伝統が受け継がれ、今迄通り安心して患者様をお願い出来る得心からお喜び申し上げます。

在任中、先生は非常に御多忙な日々を過ごされて居ましたので、退任を期に少し奥様とゆっくり過ごされてはと存じますが、先生の御性格研究熱心さから、その様な日々が訪れますかどうか。しかし何より永く健康を保たれ、今後も私達を御指導下さいます様お願い申し上げます。





## 獨協医科大学小原喜隆教授退任記念祝賀会報告

獨協医科大学眼科 松島博之

平成18年3月11日土曜日に宇都宮東武ホテルグランドにて獨協医科大学小原喜隆教授退任記念祝賀会を開催させていただきました。小原教授は昭和59年に獨協医科大学越谷病院眼科教授に就任後、平成8年に獨協医科大学眼科教授に就任され、本教室の教授を10年間勤められました。小原教授は日本白内障学会理事長を勤められ、日本眼科学会より特別功労賞を受賞するなど、獨協医大だけでなく日本の眼科領域において多大な貢献をされました。言うまでも無く温厚で実直なお人柄から人望も厚く、医局員一同、少しでも小原先生に恩返しをしようと盛大な会にするべく、祝賀会の計画から一生懸命準備を始めました。

当日は獨協医大千葉桂三の開会の辞に始まり、来賓祝辞を獨協医大 寺野彰先生、日本白内障学会前理事長 馬嶋慶直先生、岩手医科大学前教授 田沢豊先生、帝京大学薬学部教授 西郡秀夫先生、埼玉県眼科医会会長 上林茂先生、栃木県眼科医会会長 稲葉光治先生に承りました。その後、獨協医大眼科初代教授 関亮先生のご挨拶と乾杯で祝賀会が開催されました。小原教授の恩師である今泉亀撤先生、日本眼科学会会長 三宅謙作先生を初めたくさんの祝電も頂きました。会場にはたくさんの豪華な料理とともに小原教授の好きな日本酒を、小原教授が郷里として過ごしてきた岩手県、埼玉県、栃木県から取り寄せ、日本酒コーナーを用意し、好評でした。今泉眼科病院様からは公開そば打ちのコーナーを準備していただき、おいしいおそばを堪能させていただきました。予想はしていましたが、小原教授のお人柄か、会場には350人を超える出席者が集い、会場外に人があふれる程でした。式の後半には、この日のために大沼修、松井英一郎が中心となって編集準備した、小原教授と獨協医大の10年の歴史を振り返る「プロジェクトX挑戦者たち 水晶体にかけた男」と言う少々大げさなタイトルでスライドショーとは言えないくらい、素晴らしい余興で会を盛り上げてくれました。獨協医大同窓会、獨協医大越谷病院、獨協医大医局、眼科病棟、眼

科外来などたくさんの記念品や花束贈呈が終了し、ついに小原教授より退任者謝辞がありました。小原教授は岩手医大から始めて獨協医大越谷病院時代、そして獨協医大での勤務と過去の歴史を静かに振り返り、小原教授らしく、これから始まる第二の人生への新たな挑戦についてご挨拶されました。最後に次期教授である妹尾正より小原教授への感謝の意と今後の抱負として「小原イズムを受け継ぐ」と力強い挨拶で獨協医大眼科の更なる発展を約束し、会を締めくくりました。

当初は祝賀会の開催にあたり、慣れないことばかりで不安でしたが、栃木県眼科学会会員の皆様を初め沢山の人の協力、本当に良い退任祝賀会が開催できたと思います。ありがとうございました。また、開催にあたりご配慮いただいた妹尾正教授をはじめ獨協医科大学眼科学教室医局員、中でも準備調整に中心となって担当した枝美奈子、文書や郵送などを一手に引き受けてくれた教授秘書の野尻正枝の協力無しでは円滑に開催までたどり着けなかったと思います。この場を借りて感謝の意を表します。

そして、小原喜隆教授、長い間お疲れ様でした。いつも夜遅くまで大学に勤務され、どんなときでも医局員の相談を快く受け入れ、指導していただいたご恩は、一生忘れません。休むのが苦手な先生ですが、これからはもう少しゆっくりして頂き、先生の好きな研究をご一緒に出来ればと思います。本当にありがとうございました。



## 教授就任のご挨拶

獨協医科大学眼科教授 妹尾正

栃木県眼科医会の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平成18年小原喜隆教授の後任として獨協医科大学眼科学講座教授に任命されました。栄えある獨協医科大学の教授に任命されましたこと、誠に光栄であると同時にその責任を痛感しております。特に獨協医科大学卒業生を代表する一人として、その名に恥じぬよう全力を尽くす所存です。今後より一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、ご挨拶申し上げます。

私は1986年獨協医科大学を卒業し同大学眼科学教室に入局、初代関教授のもと2年間の研修を行った後、小原教授のもと獨協医科大学越谷病院で臨床特に手術の手ほどきをうけました。その後本院に助手として復帰し小暮教授のもと手術を中心に研鑽を積むと同時に、山岡前教授（生理学）、長谷川先生（国際医療福祉大学、生理学教授）、千葉先生に師事し、生体内でほとんど分裂増殖しない角膜内皮細胞の増殖能に対する研究を行い現在に至っております。臨床応用までは、まだ至っておりませんが、近い将来角膜移植をせずに角膜疾患の治療ができる日を夢見て研究に精進してゆきたいと思っております。

私を教授として獨協医科大学が選出してくださった背景は、連携医療に重きを置く医療姿勢を評価していただいた点に他ならないと思っております。現在獨協医大眼科では、外来診療および治療、手術治療を積極的に拡大し病診連携医療の更なる発展に取り組んでおります。連携医療確立の重要性は関先生に始まり小原先生に至るまでの主要なテーマでありました。開業の先生在ってこそこの大学病院であり、信頼ある大学病院在っての開業であるということをずっと教わって参りました。我々獨協医科大学眼科学教室の発展はこれまでこの一点によって育まれたといっても過言ではないと思っております。現在は私や千葉先生を中心とした

角膜治療、松島先生を中心とした白内障治療、私と高橋先生を中心とする網膜硝子体治療、高橋先生の眼付属器手術（名人芸！）、鈴木先生を中心とするブドウ膜治療、須田先生を中心とする黄斑治療をはじめ最近では澤野先生が眼窩骨折治療に多くの手術経験を積み満足の行く成果を得ております。上記以外にも岸本先生の先天性白内障治療、未熟児網膜症、屈折矯正など、目立ちませんがコツコツそして真剣に診療に取り組んでおります。

今後とも連携医療を大切にし、患者様が心身ともに満足の行く診療を行ってゆくことを心がけます。そして近隣の諸先生方から、獨協の眼科に紹介すれば安心だと思ってくださるような治療の充実と、患者様を第一に考える医師教育に一生涯をささげてゆきたいと思っております。教育、臨床、研究を通して獨協医科大学の益々の発展に誠心誠意尽力してゆく所存です。

最後に繰り返しになりますが、栃木県眼科医会の先生あってこそこの獨協医科大学であると思っております。今後より一層のご愛顧、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしく願いたします。

### 略歴

1978(昭和53)年3月	獨協学園高等学部卒業
1986(昭和61)年3月	獨協医科大学医学部卒業
1986(昭和61)年5月	第80回医師国家試験合格
1986(昭和61)年5月	獨協医科大学医学部附属病院眼科 臨床研修医
1988(昭和63)年5月	獨協医科大学越谷病院眼科 学内助手
1989(平成1)年5月	獨協医科大学眼科学 学内助手
1990(平成2)年7月	学外派遣(厚生連石橋病院眼科)

1991(平成3)年6月	日本眼科学会認定 眼科専門医(認定番号007175)	1997(平成9)年12月	海外留学(Schepkens Eye Research Institute Post Doctor Fellow)
1992(平成4)年4月	獨協医科大学 眼科学 助手	2000(平成12)年4月	獨協医科大学眼科学 講師
1994(平成6)年4月	学外派遣(厚生連熊谷総合病院眼科)	2002(平成14)年7月	獨協医科大学眼科学 助教授
1996(平成8)年4月	学位(医学博士)取得(獨協医科大学乙279号)		

## 獨協医科大学妹尾正教授就任祝賀会の報告

獨協医科大学眼科 松島博之

平成18年5月13日土曜日夕刻より妹尾正教授就任祝賀会を開催しました。場所は宇都宮東武ホテルグランデを使用しました。当日はあいにくの雨でしたが、250名以上の方にご参加いただき、盛大に会を開始することが出来ました。

妹尾教授は獨協中学、獨協高校を経て昭和61年に獨協医科大学を卒業後獨協医科大学眼科学教室に入局しました。正に獨協学園とともにこれまで歩み、向上してきたといっても良いと思います。入局後は手術、臨床の修練を積んだ後に、ボストンのスケペンス眼科研究所のNancy C. Joyce先生のもとで角膜内皮細胞の増殖・再生をテーマに2年間研究に従事してきました。帰国後はDeep Lamellar Keratoplasty (DLK) の手法を改良(妹尾法)し、臨床に研究に精進した結果、今回の教授就任に至りました。獨協医大眼科学教室内から教授誕生を目指し、小原喜隆前教授を初め、医局員一同が望んだ妹尾教授就任であり、結末の高まった医局員が一丸となって祝賀会の準備に取り掛かりました。

当日は獨協医大千葉桂三の司会のもと、須田雄三の開会の辞で始まり、来賓祝辞として獨協医大医学科長松岡博昭先生、病院長稲葉憲之先生、名誉教授関 亮先生、栃木県眼科医会会長宮下 浩先生、自治医大眼科教授水流忠彦先生、獨協医大越谷病院眼科筑田 真先生、そして前獨協医大眼科教授である小原喜隆先生にご祝辞をいただき

した。乾杯は獨協医大眼科同門会会長石崎道治先生に担当していただきました。獨協医大眼科恒例とも言える公開そば打ちを今泉眼科病院の皆様からご好意で用意していただき、おいしいおそばを堪能することが出来ました。妹尾教授のこれまでの生い立ちを面白おかしく紹介する大沼修、松井英一郎が作成した「波乱万丈 妹尾正」のスライドショーは好評で、患者さんのためなら自費で機器を購入して医療レベルを向上させた話やタイでゲリラに拉致されたこと、金縛り・座敷わらしにあったことなどの意外な人生経験の紹介があり、祝賀会は大いに盛り上がったと思います。花束贈呈の後、妹尾正教授より就任に当たっての決意とこれからの獨協医科大学眼科学教室の発展を目指し、教授としてマネージメントするだけでなく、ヤクルトの古田選手兼任監督を例示し、医局員一同全員野球で邁進していくことを約束して会は終了しました。

開催に当たっては正に全員野球で準備をさせていただきました。祝賀会を開催して獨協医科大学眼科学教室医局員の結束力を再認識することが出来ました。これから20年妹尾正教授は医局の火を守っていかねばなりません。今日の日を忘れずに、医局員一同妹尾正教授を盛り立てて、一生懸命前進して行こうと思います。今後とも栃木県眼科医会の諸先生方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



# IT'S EYE



**効能・効果**  
アレルギー性結膜炎

**用法・用量**  
通常、1回1～2滴を1日4回(朝、昼、夕方及び就寝前)点眼する。

**禁忌(次の患者には投与しないこと)**  
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**使用上の注意**

1.重要な基本的注意  
重症例には本剤単独では十分な効果が得られないので、他の適切な治療法への切替えあるいはそれとの併用を考慮し、本剤のみを漫然と長期に使用しないこと。

2.副作用  
329例中5例(1.52%)、5件の副作用がみられ、その内訳は刺激感、眼瞼皮膚炎、眼瞼炎、角膜上皮糜爛、しみるであった(承認時までの集計)。

	頻度不明	0.1～5%未満
過敏症(注)	接触性皮膚炎(眼周囲)	眼瞼皮膚炎、眼瞼炎
眼	結膜充血、眼瞼腫脹	刺激感、痒痒感

注:発現した場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

3.妊婦、産婦、授乳婦等への投与  
妊娠中の投与に関する安全性は確立していないので、妊婦(特に約3カ月以内)又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。[動物実験(マウス)で、本剤の経口大量投与により、骨格異常例の増加が認められている。]

4.小児等への投与  
低出生体重児、新生児、乳児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

5.適用上の注意

- 1) 投与経路:点眼用にのみ使用すること。
- 2) 点眼時:容器の先端が直接目に触れないように注意すること。眼周囲等に流出した液は拭き取ること。

**アレルギー性結膜炎治療剤**  
指定医薬品

## リザベン®点眼液

一般名 トラニラスト (薬価基準収載)

製造発売元  
**キッセイ薬品工業株式会社**  
松本市芳野1-9番48号  
資料請求先: 製品情報部 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号  
<http://www.kissei.co.jp> 2002年3月作成

# 平成18年度 日本眼科医会第1回定例代議員会 並びに第1回定例総会出席報告

代議員 宮 下 浩 (宇都宮市)

- 日 時：平成18年4月1日(土)17時～19時  
2日(日)9時30分～15時  
15時より総会
- 場 所：新高輪プリンスホテル3階「天平」
- 出席者：宮下 浩
- 選 挙：本年は各種選挙の年、代議員117名中  
108名出席

## (1)代議員会議長

関 公先生(千葉)が議長、藤岡 憲三先生(北海道)が副議長に選出。

## (2)日眼医役員選挙

役員立候補者が役員定数以内のため選挙なし。

○会長(定員1名)

三宅謙作先生(愛知)。

○副会長(定員3名)

北原健二(東京)、吉田 博(愛媛)、伊藤信一(青森)の各先生。

○常任理事(定員9名)

宮浦、松下、山岸、種田、高野、植田、福下、古野、山田の各先生。

○理事(定員9名)

杉浦、宇津見、千原、入江、荒川、中村、谷藤、武藤の8名の先生。欠員1名については勤務医の女性医師に交渉中6月の代議員会に諮る。

○監事2名、裁定委員9名についてもそれぞれ定員と立候補者数が同じのため当選。

## 議題・議事

### ●三宅会長挨拶

役員改選で再選をして頂き、重責を感じています。大変な難局の中引き続き難しい仕事をするのが任務と思います。小泉医療改革の保険点数改正では、全体の3.16%削減という厳しい内容あり、眼科では、コンタクトレンズ医療の包括化が厚労省の動かしがたい規制方針であった。今日の財政

難の中、社会問題になっているコンタクト医療に対して手をつけないのは行政の怠慢と言われるため強い態度で、かなりの低点数のコンタクト診療点数が問題となった。社会保険部として日本眼科社会保険会議や会員からの意見をくみ上げて、本会会員の適正な診療が妨げられないようにねばり強く交渉した結果が今日のコンタクト診療点数になった。またコンタクトレンズ施設基準による峻別については当初おくびにも出さず最後に問答無用で出された。

今後眼科医、医師以外の者が保険医療費を請求できないようにすると言うこの行政側の大きな変革の実効が上がるかどうかが問題となり、実効が上がらなければ今後更に厳しくなることもあり、本会会員への大幅削減にならないように努力する。コンタクト診療の問題点のうち、術前、術後の診療、コンタクト診療所でないところの眼科診療、他の疾患の急性増悪による診療(コンタクトレンズを中止して)の問題は解決した。今後、会員の意見をくみ上げ交渉していく。また、今回、行政側、他の診療科、国民特にマスコミなどの眼科医療に対する認識の少ないのに驚いた。眼科医療の評価が低い。これからもっと時間をかけて公衆衛生部を中心としてPRしていく。総務部の眼科医療研究会議で社会経済を鑑みて学術的な客観的な考案をしていく。はじめに白内障などの眼科医療の社会貢献度評価、病診連携の評価、眼科診療技術の評価と眼科医療の内外価格差などについて資料を持って交渉したい。広報ではホームページを充実させデジタル化を進めていく。学術部では、日眼本部、臨眼などに働きかける。情報公開の推進に努める。経理は、公益法人の法改定に対応していく。学校保険部では、保健教育、色覚バリアフリーにつとめる。医療対策部では、社保部とともにオルトケラトロジーの問題、コンタクトレン

ズ処方に関する問題、広告規制、対面販売、販売管理者と継続研修の問題について検討していく。勤務医部では、眼科診療情報のいっそうの充実を図る。小泉改革の医療改革は問題が多いが、グローバル化、少子化の問題を考えて眼科医療も構造改革を行い情報公開を推し進めていく。

## 1. 総務部

高野 繁常任理事より報告。◎本年度新設、○力を入れる項目

2)眼科医療の諸問題の検討

◎(1)眼科医療研究会議を開催し、眼科医療経済並びに医療情報の分析・検討を行う

○(3)研究活動として「眼科医療における社会的貢献度の評価」を行う。これは3年間、平成18、19、20年度に行う。

○7)医事紛争の調査と防止対策の検討

9)会員の福祉対策とその検討

◎(2)眼科女性医師活性化委員会を設置し、眼科女性医師の諸問題について検討する

○10)諸規定の整備(保留会員の削減に努める)

○11)IT化に対応した会務の効率化

## 2. 経理部

1)経理の合理的運用

◎(2)公益法人会計基準の改正に対応

## 3. 公衆衛生部

○2)眼科公衆衛生知識の啓発

(1)「目の愛護デー」行事を推進し国民に対し啓発活動を行う

(2)「目の健康講座」をブロック毎に開催し、国民の健康対策に努める

(7)公衆衛生活動を推進するため、関連団体による「眼科啓発推進連絡会」を定期的に開催する

(8)関連する業界と協力して国民啓発活動を推進する。(アイデアとお金が必要なので現在のところAMO、SANTEN、J&Jの3社に協力して貰っている)

◎(9)「目の110番」事業を推進する

○7)生活・就業環境問題対策

## 4. 広報部

1)広報活動の実施

○(1)記者発表を開催する：9月に「加齢黄斑変性症」をテーマに行う

(4)日眼医本部支部間デジタル通信を運用

(5)マスメディアに随時対応する

## 5. 学校保険部

○2)学校保健の知識の普及と現状の把握

(4)学校現場でのコンタクトレンズ実態調査をする：3年に一度行で今年が3年目

○4)全国眼科学校医連絡協議会の開催

## 6. 学術部

○1)生涯教育事業の実施

○2)日本眼科学会総集会プログラム委員会への参画

○3)専門医制度の推進

○5)眼科医療従事者教育の推進および関連事業の検討、実施

◎8)新医師臨床研修制度および後期研修システムへの対応

## 7. 社会保険部

伊藤信一副会長より報告。厚労省からコンタクトレンズについては問題が多い、特にコンタクト診療所を標的にコンタクト診療を削減すると言われた。当初はかなり低い包括点数に丸めると言われたがここまで持ってきた。三宅会長が「適正な医療を行う機関に迷惑をかけないよう」に厚労省に交渉した。厚労省の局長が強い決意で決めたことで、撤回はできない。

行政が大ナタを振るった。ただ今後予測可能、また不可能のことが起きると思う。

「実効」がどのくらいあるのかを見ていて実効があがらなければもっと厳しくなる。

大阪では6件のうち3件のコンタクト診療所がやめた、もうすぐもう1件がやめる。4～6月に在庫がなくなったら止める予定の店がある。しかし、全国105店、大阪府内23店、駅構内3店舗のHAグループが吸収合併に動いている「患者を紹介するから系列に入って、自分のホーム

ページに医師名を載せなさい」と代理店の形にしようとしている。

厚労省からの返答が遅れていたが、コンタクト診療の除外項目が認められた。

1. ハードルをもうけて緑内障の検査が認められた。ハードルとしては

- ①治療計画を作成する
- ②アプラーションで眼圧を測定して
- ③精密眼底を検査して視神経乳頭を詳細にカルテに記載しておく

2. 円錐角膜にハードコンタクトレンズを処方した場合

3. 屈折異常以外の新たな疾病発生時：コンタクトレンズを中止したとコメント。かつコンタクトレンズを処方しない。

4. 眼内手術の前後

解釈として加齢黄斑変性や糖尿病網膜症のレーザー手術前の蛍光眼底検査を行った時点で術前と判断しレーザー手術後まで。

緑内障のL Iについても同様。白内障の術前検査、網膜剥離など眼内手術についても常識的範囲で認められる。

5. コンタクトレンズを扱っていない（処方、販売していない）医療機関においては、除外項目として一般の眼科検査が認められる。

当初から全く相談なく決められた。その後要望を繰り返している。新たな除外項目が認められればその都度連絡するが5月の全国審査委員協議会で正式決定する。

支部において審査をルーズにすると実効があがらない。実効があがらなければさらに厳しく検討するという。「我々眼科医が血を流すことにより実効がどの程度あがるか我々も注意深く監視し継続的に見ていきたい」（半年以上はかかる）

その他

小児弱視の眼鏡、コンタクトレンズについては資料3の3ページに価格の100分の103に相当する額を上限とし、治療用眼鏡は実額の範囲内が請求可。

## 8. 医療対策部

植田喜一常任担当理事より、カラーコンタクトレンズについては、視力補正コンタクトレンズでないので雑品扱いで厚労省に規制する権限がない。経産省とも協議していく。さらにコンタクトレンズ協会からは、海外のコンタクトレンズで協会に入会していないので責任は持てないという。

米国ではカラーコンタクトレンズが問題となり、すでに使用禁止としている。

また、米国ではコンタクトレンズの処方箋が義務づけられ使用者にきちんと説明しないといけないことになっている。コンタクトレンズは薬剤と同じに扱われ医療行為とされている。

ジェネリック薬品の問題は、医師が先発、後発ともどの程度違いがあるのか内容を十分理解した上で判断すべき。臨眼でテーマにする。

コンタクトレンズ販売管理者継続研修について厚労省に届け出て行く。厚労省が認めた団体、日眼医、都道府県支部でも認められている。修了証はOMAをモデルに考えている。（証書だけでよいのでは？）

4つの実施フォームを作る

- ・ 県の薬務課から法的講演
- ・ 医療機器協会、CL協会による機材説明
- ・ CL医療に関する講演

詳細は日眼医本部で紹介する。

かなり金額がかかる。費用については数が少ない地区、多い地区で金額が変わる。実施モデルのフォーム、講演内容など日眼医ホームページで周知させる。

継続研修実施8機関でも、追加開催を頼まないと全員が終了しないと思われる。

## 9. 勤務医部

山田昌和常任理事担当。眼科に限らず勤務医の不足がある。研修医制度、後期研修など、いずれも大学医局と関係するので学会と関連して検討する。

## 第二号議案

### 平成18年度予算の件

福下公子担当常任理事が提案。原案通り可決。事業費50%以上（55.4%）、管理費（44.6%）である。

## 第三号議案

### 平成18年度日眼医会費賦課徴収の件

原案通り可決、昨年同様。

A会員 年額 45000円

B会員 年額 15000円

C会員 年額 7000円

### 日眼医連盟関係につき三宅会長より

ホットなニュースで、今回日医会長に東京

の唐澤会長が選出された。日眼医は植松会長ともよい関係であったが、本会会員の群馬県の羽生田先生が唐澤先生のキャビネットとして常任理事に入った。会費の納入率が40%と低いので納入をお願いしたい。ただ、小泉現政権政党とはうまくいかず、政治家が話も、口もきいてくれない状態だった。

## 総 会

代議員会の議案について全ての議案が承認された。

# 初めての $\alpha\beta$ ブロッカー点眼液



## 緑内障・高眼圧症治療剤

# ハイパジール<sup>®</sup>点眼液

指定医薬品 [ニブラジロール点眼液] 薬価基準収載

**禁忌（次の患者には投与しないこと）**

(1) 気管支喘息、気管支痙攣、又はそれらの既往歴のある患者、重篤な慢性閉塞性肺疾患のある患者〔 $\beta$ 受容体遮断による気管支平滑筋収縮作用により、喘息発作の誘発・増悪がみられるおそれがある。〕

(2) コントロール不十分な心不全、洞性徐脈、房室ブロック（Ⅱ、Ⅲ度）、心原性ショックのある患者〔 $\beta$ 受容体遮断による陰性変時・変力作用により、これらの症状を増悪させるおそれがある。〕

(3) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**使用上の注意**


1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 肺高血圧による右心不全の患者
- (2) うっ血性心不全の患者
- (3) 糖尿病性ケトアシドーシス及び代謝性アシドーシスのある患者
- (4) コントロール不十分な糖尿病の患者

2. 重要な基本的注意

全身的に吸収される可能性があり、 $\beta$ 遮断薬全身投与時と同様の副作用があらわれることがあるので、留意すること。

● その他の使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

 製造販売元 **興和株式会社** 東京都中央区日本橋本町三丁目4-14 06.1作成

# 日眼医代議員会総務経理合同常任委員会報告

代議員 宮 下 浩 (宇都宮市)

- 日 付：1月29日(日) 10時～14時
- 場 所：東京グランドホテル
- 議 題
- 1. 平成18年度事業計画(案)および予算案について
- 2. その他
- 出席者

総 務：竹 田 眞\* (北海道)  
松 戸 武 夫 (秋 田)  
宮 下 浩 (栃 木)  
宮 澤 文 明 (長 野)  
有 本 秀 樹\*\* (東 京)  
杉 田 元太郎 (愛 知)  
丹 羽 子 郎 (岐 阜)  
岡 田 日出男 (大 阪)  
富 森 征一郎 (兵 庫)  
渡 辺 猛 (島 根)  
布 村 元 (徳 島)  
武 藤 興 紀 (熊 本)  
野 田 修 二 (大 阪)  
経 理：長谷川 一 郎 (北海道)  
星 兵 仁 (福 島)  
上 林 茂\*\* (埼 玉)  
川 原 純 一 (神奈川)  
常松美 登里子\* (東 京)  
福 下 公 子 (東 京)  
石 川 靖 彦 (静 岡)  
中 川 寛 忠 (石 川)  
浅 邦 夫 (京 都)  
藤 堂 勝 巳 (兵 庫)  
神 鳥 高 世 (鳥 取)  
岡 部 史 郎 (岡 山)  
皆良田 研 介 (福 岡)  
柴 田 博 (宮 崎)

(\* 委員長、\* 副委員長)

代議員会：副議長 藤岡憲三 (北海道)

執 行 部：会 長 三 宅 謙 作  
副会長 伊 藤 真 一  
吉 田 博  
常任理事：高 野 繁  
石 川 まり子  
種 田 芳 郎

オブザーバー：会計顧問 住 田 光 生  
社保担当 山 岸 直 矢

総務常任委員の岡田先生提案で総務・経理合同でやることになった。

三宅会長挨拶：診療報酬の問題については厚労省から医療費抑制900億から1000億を削減するとの方針がある。コンタクトレンズ（以下C L）問題について、C Lは問題があるから（医師以外の者が医療保険を食っている現状があるとの眼科に対する言われなき偏見）削減するとの強い態度に対して、初診料と包括化について日眼医との闘ぎあいの中で、眼科医療の偏見を払拭させなければならない。

行政に対して要望、説明を行っている。医療技術評価委員会に斜視、弱視にするC L処方技術の問題、I O L手術にたいし水晶体再建術への技術評価問題。医師会とはうまくいっているが医政連盟とはあまり機能していない。日医と外保連に対し社保委員会で日眼と一緒に説明要望を行い日医に対してはよく理解してもらっている。社保の問題の他、日眼医の「専門の職能集団」としての機能についての仕事においても情報公開により行政の指導等の伝達以外に、倫理意識の高揚と、国民の視線を重視しながら日眼医独自の活動を通じて眼科医療を活性化していく。あらゆる場で「コンタクトレンズ診療は眼科専門医で」

と主張し公衆衛生部と協力して国民に対する啓発活動を実施することにより正しいC L診療を根付かせるべく努力を続ける。

## 総 務 部

新しい事業および今年のメイン事業

- 2) 眼科医療の諸問題の検討
- (3)研究活動として「眼科医療における社会貢献度の評価」を行う。：3年かけて行う。連盟活動に「調査啓発活動」の調査費があるので医政活動として連盟費を眼科医会が頂いて共同で行う、しかし一般会計には載せない。
- 3) 情報開示と眼科診療録に関する検討：診療録検討委員会を開催し、電子カルテを含む眼科診療録を検討する。
- 7) 医事紛争の調査と防止対策の検討
- 9) 会員の福祉対策とその検討
- (2)眼科女性医師活性化委員会を設置し、眼科女性医師の諸問題について検討する。

## 経 理 部

- 2) 公益法人会計基準の改正に対応：4月に改正することに関連して。

## 公衆衛生部

- 2) 眼科公衆衛生知識の啓発
- (2)「目の健康講座」をブロックごとに開催し、国民の目の健康対策に努める。
- (7)公衆衛生活動を推進するため、関連団体による「眼科啓発推進連絡会」を定期的に開催する。
- (8)関連する業界と協力して国民啓発活動を推進する。
- (9)「目の110番」事業を推進する（総務から新しく移行)
- 4) 生活・就業環境問題対策：産業保健活動に対し「I T環境と環境因子」活用普及に努める

## 広 報 部

- 1) 広報活動の実施

- (1)記者発表会を開催する：「加齢黄斑変性」に決まった。
- (3)ホームページに情報を提供する。
- (4)日眼医本部支部間デジタル通信を運用する。
- (5)マスメディアに随時対応する（新たに総務部から移行)

## 学校保健部

- 2) 学校保健の知識の普及と現状の把握
- (4)学校現場でのコンタクトレンズ実態調査を実施する。：3年に1度の調査
- 4) 全国眼科学校医連絡協議会の開催

## 学 術 部

- 1) 生涯教育事業の実施
- 2) 日本眼科学会総集会プログラム委員会への参画
- 日本臨床眼科学会のシンポジウムに「レセプトデジタル化」問題と「C L処方箋の問題」を予定
- 8) 新臨床医師研修制度および後期研修システムへの対応

## 社会保険部

医療費がtightなので理論で明確に話して交渉する必要がある。「保険医辞退」の意見もあるが、もっと最終のときに行う。C L診療について会員間では初診が多いと言うエビデンスを示して理解してもらった。

C Lについて、厚労省からいきなり「コンタクトレンズを丸める」と言われた。

何年も前からC L診療所をカットする方針と言われた。A会員に迷惑をかけない基本方針で検査を丸めるのはやめた。C Lの定期検査を健康診査と同じものだと言われた。初診時は認める。訴えがあり疾病を疑う時には認める。C L検査料の丸め、初診と再診についてあまり大きい影響にはならない。初診で一度C Lを作った後は、1年、2年あいても再診となる。コンタクトレンズ診療とうたっている。眼鏡ではない。

- 2) 日本眼科社会保険会議の開催
- 5) 眼科診療実態調査の実施

6) 眼科全国レセプト調査の実施・分析・検討

医療対策部

1) 医療問題適正化対策

(3)「コンタクトレンズによる眼障害調査」並びに「眼鏡処方箋書き換え事例調査」を実施・分析する。

勤務医部

7) 全国勤務医連絡協議会の開催：11月に予定

経理常任委員会

平成18年度収支予算について

収入の部

総収入：641,349,000  
当期収入：458,030,000  
繰越金：183,319,000  
会費収入：348,310,000（前年 344,990,000）  
A会員 5,460人\*45,000  
B会員 6,570人\*15,000  
C会員 580人\*7,000

支出の部

当期支出合計：481,420,000  
当期収支差額：-23,390,000  
次期繰越金：159,929,000

原案通り承認された。



医療対策から

医療対策担当理事 旭 英幸 (宇都宮市)

平成17年度より、コンタクトレンズは改正薬事法により販売管理者の居る営業所のみでの販売しか出来なくなった。販売管理者になるためには、国の医療機器センター主催の講習を受講するのみで、眼科医療の専門でなくても販売は可能となった。そしてこの改正薬事法に端を発してコンタクトレンズ販売には病院内や診療所内での販売も法的には不可能となった。したがって、当県の眼科医会に所属している会員は、それぞれMS法人を設立し、すでに設立している法人に販売管理者を常駐させて医院からのコンタクト処方箋（指示書）に基づいてコンタクト販売を行っている。そのコンタクトレンズ販売管理者の義務として継続研修を必要であることが、薬事法施行規則で明記された。そのため日眼では県ごとに継続研修を可能にするよう、厚生労働省に働きかけ昨年暮に医療機器センターでなくても、一定の条件を満たせば継続研修を開催することが可能となった。すると県支部眼科医会より先にコンタクト協会が、継続研修を行うよう申し出で、すでに参加者の募集を始めた。

栃木県眼科医会としても、継続研修を3月15日の理事会で開催を検討し、会員の利便性を鑑み平成18年12月3日、とちぎ健康の森で行うことで予

定している。講師は県福祉部薬務課課員と関プロ医療対策コンタクトレンズ専門の先生にお願いすることとで鋭意努力をはじめた。

先に述べたように継続研修はコンタクト協会募集しているが、もともとコンタクト診療や、コンタクトレンズに関することや、国民の目の衛生状況と健康に係ることは、我々眼科専門医が主導権をもたなければ、患者をはじめコンタクトユーザーに不都合が起こることは明らかである。眼科疾患の診療、検査の中心はなんといっても、屈折、矯正視力検査であろう。その治療には眼鏡、コンタクトレンズをはじめ手術などがあり、診察検査の後に患者にとって困りやすい方法を患者に示すのが眼科専門医の役割である。

ところが薬事法の改正により患者自らコンタクトレンズをテレビコマーシャルや友人の話などでの情報で誤った選択する可能性もある。コンタクトレンズ使用に自己責任と謂う無責任な国の考えが、角膜障害やさらに進むIT社会の一つの問題である、dry eyeや眼精疲労も増加するであろう。

コンタクト診療に関する販売の継続研修を眼科医会として行うことが、真の国民の眼科医療、国民眼科衛生に責任を持つ一助となることを信じる。

[薬価基準収載]

角結膜上皮障害治療用点眼剤

# ヒアロンサン® 0.1

## Hyalonsan 0.1

指定医薬品 (ヒアルロン酸ナトリウム点眼液)

【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】等については、製品添付文書をご参照ください。

® 登録商標

発売元  
日東メディック株式会社  
富山県富山市八尾町保内1-14-1

製造販売元  
TOA 東亜薬品株式会社  
富山県富山市水橋開発277番10

(資料請求先)  
日東メディック株式会社 医薬安全管理室  
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-7-3

2005年4月作成

# 関ブロ連絡協議会出席報告 (平成17年度第2回)

関ブロ監事・顧問 **稲葉光治** (宇都宮市)

- **日時**：平成18年3月5日(土) 13時～15時
- **場所**：ホテルキャメロットジャパン横浜
- **出席**：稲葉会長、宮下代議員、早津関ブロ監事・顧問、柏瀬関ブロ顧問

神奈川県支部長、相沢世話人の司会で開会、物故者への黙祷（急逝された長野県眼科医会会長宮沢文明先生 他12名、本県は該当者なし）議題に入る。

## 1. 世話人よりの提案、協議事項 相澤世話人

### 1) 平成18年度事業計画案について

種田日眼医常任理事より提案

内容は例年とほぼ同様で下記の通り

- (1) 関東甲信越地区眼科医連合会支部長会議の開催  
第1回 平成18年6月3日(土) 於：水戸  
第2回 平成19年3月4日(日) 於：横浜
- (2) 関東甲信越眼科医連合会連絡協議会の開催  
第1回 平成18年6月3日(土) 於：水戸  
第2回 平成19年3月4日(日) 於：横浜
- (3) 関東甲信越地区眼科医連合会部門別会議の開催  
平成18年6月3日(土) 於：水戸

### ① 関ブロ健康保険委員会

### ② 関東ブロ勤務医委員会

- (4) 第42回関東甲信越眼科学会懇親会の開催  
平成18年6月3日(土) 18：45～  
水戸京成ホテル 2F「瑠璃の間」

### (5) 第42回関東甲信越眼科学会の開催

日時：平成18年6月4日(日) 9時～12時  
場所：水戸京成ホテル 2F「瑠璃の間東」  
演題・演者

- ① 「QOV・QOLを目指した網膜剥離手術」  
筑波大学講師 岡本史樹先生

- ② 「緑内障診断機器の最新の進歩」  
東京医大霞ヶ浦病院眼科助教授  
尾峪雅博先生

- ③ 「白内障手術の進歩」  
筑波大学眼科教授 大鹿哲郎先生

### (6) 関東甲信越地区眼科医連合会医療従事者講習会の開催

日時：平成18年6月4日(日) 9時～12時  
場所：水戸京成ホテル 2F 「瑠璃の間西」  
① 「眼科最近の進歩」  
茨城県眼科医会副会長 坂西良彦先生

② 「医療事故」  
茨城県眼科医会副会長 小沢忠彦先生

③ 「患者様第一主義」  
JALアカデミー接遇事業

### (7) 会報の発行 会報編集委員会の開催 平成19年2月4日(日) 新横浜プリンスホテル予定

### (8) 第43回関東甲信越眼科学会の開催

日時：平成19年6月30日(土)、7月1日(日)  
場所：ホテルニューイタヤ  
(JR宇都宮駅より徒歩10分)

担当：栃木県眼科医会  
以上、原案通り承認された。

### 2) 平成18年度予算案について

収入の部：	会費	6,580,000
	助成金	1,050,000
	前期繰越金	9,500,000
	雑収入	402,000

(広告、利子等)

収入合計 17,532,000、昨年比、550,000増。

支出の部：	事務費等	700,000
	会議費	1,750,000
	事業費(学会費)	2,700,000
	(会報費)	2,400,000
	予備費その他	1,100,000
	当期支出合計：	8,650,000

次期繰越金： 8,882,000

以上、予算総額、内容共例年と略同様で原案通り承認された。

### 3) 関ブロ推薦日眼医人事について

関ブロ推選日眼医人事(平成18年～19年度)  
敬称略

#### 1. 日眼医代議員会

- 1) 議長：関公(千葉)
- 2) 常任委員会委員
  - ① 総務常任委員：宮下浩(栃木)  
\* 宮澤文明(長野) → 北原博(長野)
  - ② 経理常任委員：  
\* 上林茂(埼玉) → 金子襄(埼玉)  
川原純一(神奈川)
  - ③ 運営常任委員会：伊佐治尚文(千葉)  
藤井青(新潟)

#### 2. 日眼医委員会委員

- 1) 公衆衛生委員会委員：  
\* 津田玄一郎(神奈川) → 柳川明彦(神奈川)  
\* 猿谷繁(群馬) → 山西正昭(山梨)
- 2) 社会保険委員会委員：  
金子襄(埼玉) → 若山久(埼玉)  
大関尚志(神奈川)
- 3) 医療対策委員会委員：佐野研二(千葉)  
大野晋(新潟) → 武田啓治(新潟)
- 4) 勤務医委員会委員：  
小島孚允(埼玉)、鎌田光二(神奈川)

#### 3. 日眼医裁定委員：野中杏一郎(長野)

4. 執行部役員候補者  
常任理事候補者：高野繁(神奈川)  
種田芳郎(神奈川)  
理事候補者：入江純二(千葉)  
宇津見義一(神奈川)

### 4) 日眼医定例代議員会ブロック代表質問について

#### 5) 関ブロ人事について

- (1) 支部長交代について  
下記県より支部長(会長)の交代についての説明がなされた。  
栃木、神奈川、長野、埼玉、山梨、新潟の

各県(茨城、群馬、千葉の各県は変更なし)

(2) 顧問推選について  
世話人より各県退任会長に顧問の委嘱がなされ、了承された。

(3) 監事について  
早津尚夫顧問、山本修関ブロ顧問監事留任を承認された。

(4) 世話人交替について  
神奈川県会長交替に伴い、相澤克夫世話人が辞任。世話人は神奈川県次期会長が担当する事となった。

## 2. 各県よりの報告・提案事項

茨城県：第42回関ブロ学会開催について  
平成18年6月3日(土)、4日(日)  
水戸市：京成ホテル

栃木県：第43回関ブロ学会開催について  
平成19年6月30日(土)、7月1日(日)  
宇都宮市：ホテルニューイタヤ  
学会の準備状況について説明した。

千葉県：第41回関ブロ学会開催報告  
平成17年5月28日(土)、29日(日)  
ホテルニューオータニ幕張

次年度関ブロ学会担当県が、次年度健康講座を開催する事になっているが今年も8月に予定されている。

埼玉県：健康講座開催報告

本年4月の診療報酬改定に関して、CL関連の点数が変更となる。「丸め」と、施設基準により、I、IIと区別される事となるが、施設基準についてはこの会議の時点では、CLに係る検査を実施した患者と外来患者との比率は決定していなかった。又、CL診療と一般眼科疾患と重なった際の算定の矛盾、疑問点、不満が多く出されたが、何れも厚労省、日眼医の見解が出てから、その内容を再び検討する必要があり、現時点では結論は見出せなかった。又、施設基準の届出先、方法についても、質問があった。

高度管理医療機器販売管理者継続研修会を地区眼科医会が行う事となった。その開催要項についての説明が日眼医役員よりあった。眼科医



会員のみにならず、一般の受講者を受け入れる事、その広報を行う事、平成18年中に行う事が条件となる。(現在では全国数県を除いて各地区で実施が予定され、栃木県でも12月3日に行う予定)

### 3. 日眼医報告

高野 繁日眼医常任理事、入江純二常任理事より日眼医の現況について報告があった。

### 4. 日眼医代議員会経理・総務合同常任委員会報告

上林 茂代議員 (埼玉県) より報告があった。

### 5. 関プロ会報編集委員会報告

小口和久世話人指名 (神奈川県) より報告があった。

次の協議会は6月3日(土)水戸市での関プロ学会第一日に開催の予定である。

以上を以って閉会した。

## 平成18年度栃眼医総会開催報告

副会長・総務担当理事 宮 下 浩 (宇都宮市)

平成18年度栃眼医総会は、4月23日(日) 自治医大研修センターで、例年通り第51回栃木県眼科集談会と同日、集談会一般講演終了後、午前11時15分より開催されました。宮下の司会で開会、出席者76名、委任状27名計103名(会員数154名、3分の2以上)で総会は成立、物故会員はなく、議事に入りました。

### 1. 会長挨拶

稲葉会長から挨拶があり、栃木県眼科医会の会務および事業が昨年も支障なく円滑に遂行できた。学術関係は年8回、集談会2回、栃眼医研究会2回、第28回獨協眼科栃眼医合同講演会、眼科セミナー2回、下野眼科談話会を開催した。両大学の先生方のご協力に厚くお礼申し上げます。また昨年度は、4名の日眼専門医認定試験合格者があった。コメディカル試験も全員合格。保険関係も審査委員の連絡会を持って円滑な遂行を計った。公衆衛生は、10月2日(日)宇都宮保健センターで「目の無料相談」に92名、「目の健康講座」には、自治医大の茨木信博教授による「最近どうも見にくいと感じていませんかー加齢黄斑変性症の症状と治療を中心にー」の講演を御願ひし好評でした。また栃木県アイバンク理事が2名「アイバンクコーナー」に参加いただいた。日本網膜色素変性症協会JRPSの年2回講演会開催に協力した。親睦ゴルフ、栃眼医忘年会、勤務医関係も円滑に遂行できました。コンタクトレンズが高度管理医療機器危険度」に指定され、施設基準と販売管理士が問題となった。昨年は栃木県では、医療対策担当の旭先生が苦勞され、地方では販売所への立ち入り監査が行われたが、なんとかクリアーした。県内眼科CL診療所97医療施設中、日眼、日眼医会員でないものが30施設ある。販売管理士が落ち着いたら、今度は保険でコンタクトレンズ診療を締め付

けてきた。吉澤健保担当理事に説明会を開催してもらったが、本日の健保研究会でもよく討議して欲しい。今日のように眼科医療には何かと難しいときこそ、会員全員がまとまって眼科診療を良くしていかなければならないと思います。また、来年19年6月30日と7月1日に関プロが当県担当で開催されすでに3回の準備委員会が開催され、会場はホテルニューイタヤで3名の学会講演者が決まった。開催にあたり皆様のご協力をお願いします。最後に、3年前に会長を引き受けたが健康を害し、一時よりは回復したが来年の関プロを控え直前で交代するよりも本年で退任をさせていただきたい。理事会で、宮下副会長を推薦することが決まった。よろしくをお願いします。

### 2. 報告

- (1)平成17年度栃木県眼科医会会務報告  
宮下総務担当理事が行った。(内容は、別掲)
- (2)平成17年度栃木県眼科医会会計報告  
(アイバンク募金集計報告も含めて)  
木村経理担当理事が行った。(内容は、別掲)
- (3)平成18年度第1回日眼医定例代議員会出席報告  
宮下代議員が行った。(内容は、本号に別掲)

### 3. 協議

- (1)平成18年度栃木県眼科医会事業計画の件  
宮下総務担当理事が原案説明、承認された。  
(内容は別掲)
- (2)平成18年度栃木県眼科医会予算の件  
木村経理担当理事が、原案説明、承認された。  
(内容は別掲)
- (3)新年度栃木県眼科医会会長選出の件  
立候補者がいないため、宮下副会長が選出された。

<p>NOVUS® <i>varia</i>™ ノーバスヴァリア マルチカラーレーザー光凝固装置</p> <p>レーザー選定の 新基準</p>		<p>シュアスポット 高い安全性と均一な凝固斑を 両立させた独自のフォーカス システムを採用しています</p>	
<p>green</p> 	<p>タッチパネル カラーLCD 暗室においても高い視認性を 実現しました</p>	<p>マルチカラー グリーン、イエロー、レッドの 各波長は各々独立した光学系で 構成されています</p>	<p>AC100V 設置場所を選びません 空 冷 冷却水は全く不要です</p>
<p>red</p> 	<p>yellow</p> 	<p>デリバリーシステム スリットランプ、 双眼倒像鏡および 眼内レーザーキットを ご用意しております</p>	
<p>高性能が揃うと、ルミナスになる</p>			
<p>LUMENIS™ Enhancing Life. Advancing Technology.</p> <p>株式会社 日本ルミナス E-mail: ophlaser.japan@lumenis.com URL: http://www.lumenis.co.jp 本社: 〒108-0071 東京都港区白金台3-19-1 第31興和ビル Tel: 03-5789-8300 Fax: 03-5789-8310</p>			

#### 4. 新会長挨拶

皆様からご推薦いただきましたが、会長の器でないことはよく自覚しております。加藤副会長の代理として副会長を務めさせていただきました。加藤先生とは、稲葉先生を支えて稲葉会長と一緒に身を引こうと話しておりました。しかし、来年の関プロを控えておりなんとしても関プロ学会を成功させたいと思います。力の及ばないところは、優秀な理事役員の皆様へ支えていただき職務に全力を上げます。どうぞ、会員の先生方もお力をお貸しいただき栃木県眼科医会が発展できますよう宜しくお願い申し上げます。

#### 健保研究会（新点数説明会）

吉澤 徹保険担当理事の司会で、保険担当副会長の齊藤武久先生、社保審査委員の千葉先生、小暮先生、国保審査委員の水流教授、亀卦川先生が担当で行われた。新点数の説明および事前の6つの質問に対する説明があった。いずれもコンタクト診療に関してのもので今後も混乱しそうである。

#### 5. 閉会挨拶

齊藤武久副会長から挨拶があり、12時25分に総会を終了した。

## 平成17年度栃木県眼科医会会務報告

- 平成18年4月23日(日)
- 栃木県眼科医会総会

### 1. 総務関係

(1)会員数 (H18. 3. 31. 現在)

A会員61名、B会員73名、C会員16名、M会員4名、合計154名  
(他に「準」会員2名)

(2)会員の異動

入会者 2名

- C 加藤 健 (自治医大)
- C 横山 真介 (佐野厚生総合病院)

転入者 4名

- B 陳介任 (NHO栃木病院) 東京より
- B 三田真史 (大田原市原眼科) 東京より
- A 稲葉全郎 (宇都宮市稲葉眼科) 千葉より
- B 国松志保 (自治医大) 東京より

転出者 10名

- B 角田 和繁 (足利赤十字病院) 東京へ
- B 草間 満美子 (獨協医大) 茨城へ
- B→A 高橋 和晃 (獨協医大) 山形へ
- B 久保田 俊介 (自治医大) 静岡へ
- C 久保田 みゆき (自治医大) 静岡へ
- B 豆生田 千浦 (自治医大) 埼玉へ
- B 岡田 佳典 (獨協医大) 北海道へ
- B 酒井 淑子 (獨協医大) 埼玉へ
- B 森 樹郎 (自治医大) 東京へ
- C 結城 賢弥 (NHO栃木病院) 東京へ

異動

①勤務先変更

- B 原 岳 (自治医大) 宇都宮市原眼科病院へ
- B 大島 春香 (芳賀赤十字病院) 那須塩原市国際医療福祉病院へ

②勤務先変更

- A 小倉 修 (佐野市小倉クリニック) 足利市に「鹿島眼科」開業
- A 伊野田 繁 (那須塩原市伊野田眼科クリニック)
- B 清水 由花 ( )

③会員種別、勤務先変更

- A→B 井廻 万里 (宇都宮市いまわり眼科) 金子眼科へ
- B→A 金子 禮子 (宇都宮市稲葉眼科) 「金子眼科」開業

④会員種別変更

- C→B 久保田 俊介 (自治医大)

瞳の健康を最優先に考えた

## 革新的な新素材 シリコンハイドロゲルレンズ

高い酸素透過率  
(DK/t値)175

乾燥感の少ない、24%という  
低い含水率

従来の使い捨てソフトコンタクトレンズと比べて6倍\*、従来型ソフトコンタクトレンズと比べて20倍\*の酸素透過率を実現。  
\*：当社比

酸素透過率

酸素透過率と含水率の関係

1. レンズ素材…… ソフトコンタクトレンズ分類：グループI USAN：lotrafilcon A  
2. レンズ物性…… 含水率：24% DK値：140\* DK/t値：175\*  
3. レンズデザイン…… 直径：13.9mm ベースカーブ：8.4mm, 8.6mm  
中心厚：0.08mm (-3.00Dの場合)  
4. 製作範囲…… +5.00～+0.25D (0.25D間隔) -0.25～-8.00D (0.25D間隔)  
-8.50～-10.00D (0.50D間隔)

※：\*DK/t値の単位：×10<sup>-9</sup> (cm/sec)・(mL O<sub>2</sub>/mL×mmHg)  
\*DK値の単位：×10<sup>-11</sup> (cm<sup>2</sup>/sec)・(mL O<sub>2</sub>/mL×mmHg)

Better eyes for a better life CIBA Vision

一日中、健康な瞳  
O<sub>2</sub> オプティクス  
1ヶ月交換型日着用ソフトコンタクトレンズ

O<sub>2</sub> オプティクスに関する情報は <http://www.o2optix.jp>

お問合せ・ご相談は、弊社営業又はこちら  
チバビジョンダイヤル ☎ 0120-389103  
(24時間 365日対応)  
なお、通話内容は弊社のサービス向上のために自動的に録音させていただいております  
(製造販売元)チバビジョン株式会社  
東京都品川区東品川12-2-24天洲セントラルタワー13階  
承認番号 21600BZY00383000

- C→B 竹 沢 美貴子 ( ﾞ )  
 C→B 小 出 義 博 (獨協医大)  
 C→B 後 藤 憲 仁 ( ﾞ )  
 C→B 澤 野 宗 顕 ( ﾞ )  
 C→B 野 堀 秀 穂 ( ﾞ )  
 A→B 稲 葉 光 治 (宇都宮市稲葉眼科)

⑤自宅住所変更

- B 山 田 篤 子 (獨協医大)  
 C 青 瀬 雅 資 ( ﾞ )  
 A 久保田 芳 美 (宇都宮市くぼた眼科)  
 A 落 合 憲 一 (下野市おちあい眼科)  
 B 落 合 万 理 ( ﾞ ﾞ )

⑥改姓および自宅住所変更

- C 長池陽子 (獨協医大) 旧姓吉田  
 C 橋本佳奈 (自治医大) 旧姓森

(3)定例総会開催 (1回) H17. 4. 17(日) 於：自治医大

(4)理事会開催 (6回)

- 第1回 H17. 5. 18(水) 於：宇都宮市医師会館  
 第2回 H17. 7. 20(水) ﾞ  
 第3回 H17. 9. 21(水) ﾞ  
 第4回 H17. 11. 16(水) ﾞ  
 第5回 H18. 1. 18(水) ﾞ  
 第6回 H18. 3. 15(水) ﾞ

(5)中央及び関プロ諸会議に出席

- H17. 4. 2(水) 平成17年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会  
 H17. 4. 3(日) ﾞ (東京) 宮下  
 H17. 6. 25(水) 平成17年度第2回日眼医定例代議員会、定例総会  
 H17. 6. 26(日) ﾞ (東京) 宮下  
 H17. 9. 4(日) 日眼医全国支部長会議 (東京) 稲葉  
 H18. 1. 29(日) 日眼医代議員会総務経理合同常任委員会 (東京) 宮下  
 H17. 5. 28(土) 平成17年度第1回関プロ支部長会議、関プロ連絡協議会  
 (千葉) 稲葉、宮下、早津、柏瀬  
 H18. 3. 5(日) 平成17年度第2回関プロ支部長会議、関プロ連絡協議会  
 (横浜) 稲葉、宮下、早津、柏瀬

(6)第43回関東甲信越眼科学会 (栃木) 準備委員会開催

- (第1回) H17. 10. 19(水) 宇都宮市医師会館  
 (第2回) H18. 2. 15(水) ﾞ  
 準備委員：稲葉 (光)、斎藤 (武)、宮下、木村、大久保 (彰)、井上、吉沢 (徹)、  
 城山、苗加、原 (裕)、旭、松島、上田、早津、柏瀬 以上15名

(7)獨協医大眼科小原喜隆教授退任祝賀会 (3月11日(土) 宇都宮東武ホテルグランデ)

(8)栃眼医総務部会開催 (H18. 2. 9(木) 於：ホテル丸治稲葉、斎藤 (武)、宮下、原 (裕)、木村、

早津出席

2. 経理関係

- (1)栃木県アイバンクの献眼運動協力募金  
 (2)会費の銀行口座よりの自動引落とし方式の推進

3. 学術関係

(1)栃木県眼科集談会

第49回 H17. 4. 17(日) 於：自治医大 出席者76名 (ほかにORT8名)

- 一般講演 8題  
 特別講演 若倉雅登院長 (井上眼科病院)  
 演題 「神経眼科つまみぐい」

第50回 H17. 11. 18(金) 於：宇都宮市医師会館 出席者78名

- 一般講演 8題  
 特別講演 高橋佳二講師 (獨協医大)  
 演題 「涙道疾患への対応」

(2)栃木県眼科医会研究会

第33回 H17. 6. 3(金) 於：宇都宮グランドホテル

- 参天製薬と共催 出席者60名  
 特別講演 1. 講師 阿部達也先生 (新潟大眼科総括医長)  
 演題 「術後眼内炎について」  
 2. 講師 坪田一男教授 (慶應義塾大)  
 演題 「ドライアイアップデート2005」

第34回 H18. 1. 13(金) 於：宇都宮グランドホテル

- チバビジョン・ノバルティスファーマと共催 出席者60名  
 特別講演 1. 講師 糸井素純院長 (糸井眼科医院)  
 演題 「シリコーンハイドロゲルレンズの最新臨床評価」  
 2. 講師 湯沢美都子教授 (日大駿河台病院)  
 演題 「加齢性黄斑変性症の最新の診断と治療」

(3)第28回獨協眼科栃眼医合同講演会

- H17. 7. 29(金) 於：獨協医大 出席者67名  
 1. 黒坂大次郎教授 (岩手医大) 「白内障手術の新しい風」  
 2. 白井正彦教授 (東京医大) 「診断や検査の場としての硝子体について」

(4)栃木眼科セミナー

- 第12回 H17. 9. 30(金) 於：ホテル東日本宇都宮  
 吉富健志教授 (秋田大)  
 演題 「今後の緑内障治療の可能性一大規模スタディはなぜ必要か」  
 第13回 H18. 3. 10(金) 於：小山グランドホテル  
 天野史郎先生 (東大助教授)  
 演題 「角膜再生治療」

(5)第16回 下野眼科談話会

- H18. 2. 24(金) 於：小山グランドホテル  
 一般講演 5題  
 特別講演 大木孝太郎院長 (東京大木眼科)

演題 「白内障手術、現在の到達点と近未来」

(6)第16回 日眼専門医認定試験合格者（当県分4名）

菊池通晴、永田万由美、久保田俊介、陳介任

(7)栃木県総合医学会開催打合せ会（6月9日(木) 県医師会）稲葉出席

#### 4. コメディカル

(1)第27回眼科コメディカル講習会、試験

講習会は関東各県共同主催（於：帝京大）で実施され、当県より25名が受講した。

試験はH17. 5. 14(土) 25名受験。

(2)第28回眼科コメディカル講習会 受講者26名

#### 5. 保険関係

(1)中央及び関プロの会議に出席

H17. 5. 28(土) 関プロ健康保険委員会（千葉）永田、亀卦川

H17. 5. 29(日) 日眼医全国審査委員連絡協議会（東京）千葉

H17. 10. 30(日) 日眼医各支部健保担当理事連絡会（東京）吉沢（徹）

(2)健保研究会

H17. 4. 17(日) 栃眼医総会と同時開催

H17. 11. 18(金) 集談会後開催

(3)栃木県社保国保審査委員（眼科）連絡会

H17. 6. 15(水) 宇都宮市医師会館

千葉、斉藤（武）、水流、亀卦川、小暮（正）、永田、吉沢（徹）出席

H17. 11. 8(火) 宇都宮市医師会館

千葉、斉藤（武）、小暮（正）、水流、亀卦川、吉沢（徹）出席

#### 6. 広報関係

(1)栃木県眼科医会報（第34号）発行（平成17年7月）

栃木県眼科医会報（第35号）発行（平成18年1月）

(2)理事会だより（6回）発行

(3)関プロ会報編集会議H18. 2. 5(日) 横浜城山出席

(4)関プロ会報に「会長のことば」「支部だより」投稿

(5)千寿製薬「銀海」新風土記—栃木県—に協力執筆

#### 7. 学校保健関係

(1)中央の会議に出席

全国眼科学校医連絡協議会 H17. 7. 24(日)（東京）苗加出席

(2)栃医学校保健部会理事会（第1回）4月28日(木) 県医師会、（第2回）8月25日(土)

宇都宮東武ホテルグランデ 苗加出席

(3)下都賀郡市医師会主催学校医研修会 H17. 6. 30(木) 苗加出席

#### 8. 公衆衛生関係

(1)栃眼医公衆衛生部会開催 H17. 8. 20(土) 理事会終了後

稲葉、斉藤（武）、宮下、原（裕）、（参天）大上、（千寿）森下

(2)目の愛護デー行事会場下見および打合せ会

H17. 8. 6(土) 宇都宮市保健センター

稲葉、斎藤（武）、宮下、原（裕）、福島、（参天）大上、（千寿）森下

(3)目の愛護デー行事開催 H17. 10. 2(日) 於：宇都宮市保健センター

#### ①記念行事

「目の健康相談」「目の健康講座」実施

相談会に92名、目の健康講座に42名 来場

健康相談 10時～13時

相談医：柏瀬（光）、早津（宏）、高橋（雄）、高橋（佳）

健康講座 13時30分～15時

講師：自治医大茨木信博教授

演題 「最近どうも見にくいと感じていませんか

—加齢黄斑変性症の症状と治療を中心に—」

参加役員：稲葉、斉藤（武）、宮下、原（裕）、福島

#### ②広報活動

・下野新聞に寄稿9月29日(木) 吉沢（徹）理事

・新聞意見広告下野、朝日各紙

・宇都宮市の広報誌「広報うつのみや」、栃医新聞、宇医会報に「目の愛護デー記念行事」の案内を掲載

(4)日本網膜色素変性症協会JRPS栃木支部医学講話 H17. 10. 16（日）於：鹿沼市 福島出席

(5)献眼募金箱（栃木県アイバンク）を各眼科受付に設置し募金運動に協力

(6)栃木県アイバンク理事会（10月15日(土) ホテル東日本宇都宮）稲葉出席

#### 9. 医療対策部

(1)H17. 5. 28(土) 関プロ医療対策委員会（千葉）旭出席

(2)県内CL診療所の実態調査

県内眼科97医療施設中管理医師が日眼、日眼医学会でないものが30施設あり。

#### 10. 福祉関係

(1)栃眼医親睦ゴルフコンペ

第62回 H17. 4. 17(日) 桃里C C 18名参加

優勝：大久保（彰）準優勝：中静

第63回 H17. 10. 23(日) ヒルクレストC C 15名参加

優勝：茨木 準優勝：高橋（佳）

(2)栃眼医忘年会開催

H17. 12. 9(金) 於：ホテルニューイタヤ 出席者35名

(3)平成16年度日眼医眼科医事紛争事例調査実施 栃木県内該当1例

#### 11. 勤務医関係

(1)中央および関プロの会議に出席

H17. 5. 28(土) 関プロ勤務医委員会（千葉）上田出席

H17. 11. 6(日) 第6回 全国勤務医連絡協議会（東京）上田出席

(2)第10回栃木県眼科手術談話会の開催

H17. 5. 20(金) 於：宇都宮市医師会館 出席53名 演題数6題

#### 12. 日本眼科医連盟関係

(1)日眼医連盟協議委員会

H17. 9. 4(日)（東京）稲葉出席

(2)本年度連盟会費納入者（当県分）130名 納入率 84.4%

平成17年度 栃木県眼科医会報会計報告

平成17年度 栃木県眼科医会会計報告

自平成17年4月1日～至平成18年3月31日

収入	前年度よりの繰越金	639,398円
	広告料 第34号(24社)	525,000円
	第35号(24社)	595,000円
	利息	6円
合計		1,759,404円

支出	印刷代 第34号	404,145円
	第35号	527,625円
	郵便、配達料	92,010円
	消耗品	8,973円
合計		1,032,753円

収入	1,759,404円
支出	1,032,753円
残高	726,651円 (平成18年度に繰越し)

平成18年3月31日  
 栃木県眼科医会報編集委員長 城山力一 ㊟

平成18年4月10日  
 栃木県眼科医会監事 原 孜 ㊟  
 早津尚夫 ㊟

収入の部

費目	平成17年度 予算	平成17年度 決算	比較		備考
			増	減	
1 日眼医会費	21,000	29,000	8,000	—	B×1 C×2
2 関プロ分担金	370,000	389,000	19,000	—	A×60 B×67 C×15
3 栃眼医会費	2,700,000	2,868,000	168,000	—	A×60 B×67 C×15 準×1
4 入会金	150,000	170,000	20,000	—	金子 禮子先生 稲葉 全郎先生
5 補助金	100,000	100,000	—	—	栃木県医師会
6 その他	50	50.030	49,980	—	銀行利子、原稿料
7 繰越金	1,403,479	1,403,479	—	—	
合計	4,694,529	5,009,509	314,980	—	

支出の部

費目	平成17年度 予算	平成17年度 決算	比較		備考
			増	減	
1 日眼医会費	21,000	29,000	8,000	—	B×1 C×2
2 関プロ分担金	370,000	389,000	19,000	—	A×60 B×67 C×15
3 事務通信費	800,000	571,846	—	228,154	
4 総会学会補助	820,000	615,184	—	204,816	
5 出張費	550,000	390,000	—	160,000	
6 会議費	550,000	647,925	97,925	—	理事会6回 保険部会2回 関プロ学会準備委員会2回
7 慶弔費	100,000	170,936	70,936	—	
8 予備費	50,000	0	—	50,000	
9 その他	100,000	300,000	200,000	—	事務局御礼、入会金返還
合計	3,361,000	3,113,891	—	247,109	

5,009,509円 - 3,113,891円 = 1,895,618円 (平成18年度へ繰越し)

上記決算報告を監査し、適正な事を認証する。

平成18年4月10日 栃木県眼科医会監事 原 孜 ㊟  
 早津尚夫 ㊟

# 平成17年度 医事対策費及び日本眼科医連盟会費収支決算報告

自平成16年4月1日～至平成17年3月31日

# 平成18年度 栃木県眼科医会事業計画

## 1. 平成17年度医事対策費決算報告

### 収入の部

費目	平成17年度 予算	平成17年度 決算	比較		備考
			増	減	
1 対策費	2,650,000	2,775,000	125,000	—	A×60 B×67 準×1
2 その他	65,000	67,047	2,047	—	日眼医連盟 銀行利子
3 繰越金	5,932,142	5,932,142	—	—	
合計	8,647,142	8,774,189	127,047	—	

### 支出の部

費目	平成17年度 予算	平成17年度 決算	比較		備考
			増	減	
1 事務通信費	1,000	2,000	1,000	—	
2 新聞広告	1,500,000	1,435,875	—	64,125	下野新聞 読売新聞
3 その他	250,000	208,875	—	41,125	目の愛護デー補助
合計	1,751,000	1,646,750	—	104,250	

8,774,189円－1,646,750円＝7,127,439円（平成18年度へ繰り越し）

## 2. 平成17年度日本眼科医連盟会費収支決算報告

収入	金額	支出	金額
A会員×59	590,000	第1回送金平成16年12月20日	990,000
B会員×59	590,000	第2回送金平成17年3月15日	310,000
C会員×14	140,000		20,000
交付金（納入額の約5%） その他（医事から利子）	67,000 2,002	交付金を医事対策費へ 事務通信費	67,000 1,365
合計	1,389,002	合計	1,388,365

1,389,002円 － 1,388,365円 ＝ 637円（平成18年度へ繰り越し）

上記決算報告を監査し、適正な事を認証する。

平成18年4月10日 栃木県眼科医会監事 原 孜 ㊟  
早津尚夫 ㊟

## 1. 総務部

- (1)定例総会開催（1回）
- (2)理事会開催（6回）
- (3)日眼医支部長会議、代議員会への出席と会議内容の会員への伝達
- (4)関プロ眼科医会連合会の各種会議への出席と会議内容の会員への伝達
- (5)日眼及び日眼専門医制度委員会連絡事務
- (6)当会のあり方、会務全般に関する近代化の検討
- (7)第43回関東甲信越眼科学会（平成19年、当番県栃木）の開催準備

## 2. 経理部

- (1)適正な会費の検討及び会費徴収法等の合理化の検討

## 3. 学術部

- (1)栃木県眼科集談会の開催（2回）
- (2)独協医大眼科栃眼医合同講演会の開催
- (3)栃木県眼科医会研究会、その他の生涯教育活動（講演会、症例検討会等）の企画、開催、後援
- (4)生涯教育用ビデオの貸し出し
- (5)各種学会その他の学術行事に関する会員への案内

## 4. コメディカル部

- (1)眼科コメディカル講習会の開催
- (2)眼科コメディカル既合格者、眼科看護師等に対する生涯教育の開催
- (3)眼科コメディカル講習会スライド複製の貸出し

## 5. 保険部

- (1)全国審査委員連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達
- (2)各支部健保担当理事連絡会出席と会議内容の会員への伝達
- (3)審査委員との連絡強化と適正な保険医療の検討
- (4)健保研究会、及び勤務医会員、新規開業会員対象の保険診療講習会の開催
- (5)点数改正説明会の開催
- (6)保険診療の手引き発行
- (7)社保国保審査委員連絡会開催
- (8)栃眼医審査委員推薦委員会設置

## 6. 広報部

- (1)会報発行（年2回）

(2)会員名簿発行

- (3)理事会だより発行（年6回）
- (4)会員へのFAX連絡網の新設
- (5)関プロ会報編集会議への出席
- (6)一般対外啓蒙活動の推進（検眼、CL取り扱いに関する正しい知識、視力回復センター等に関する啓蒙活動等）

## 7. 学校保健部

- (1)全国眼科学校医連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達
- (2)眼科学校健診のあり方の再検討及び受診報告書の県内統一の検討
- (3)健康相談としての色覚検査の実施
- (4)学校保健委員会の活用と養護教諭への啓蒙活動の推進
- (5)学校保健活動のための教材、啓発資料の整備、貸し出し
- (6)日眼医の学校現場でのCL実態調査への協力

## 8. 公衆衛生部

- (1)目の愛護デー行事、特に目の無料相談の実施
- (2)市民公開講座の実施
- (3)アイバンク事業への協力
- (4)県感染症サーベイランス事業への協力
- (5)糖尿病に関する病診連携の推進

## 9. 医療対策部

- (1)非医師の医業類似行為問題、特にコンタクトレンズ違法処方事例への対応
- (2)薬事法改訂に伴うコンタクトレンズ診療への取り組み方への検討

## 10. 福祉部

- (1)諸種会員親睦行事の企画、実施  
ゴルフ（2回）、その他の趣味の会の開催、懇親会、忘年会等の企画
- (2)医療事故防止対策
- (3)医業経営、特に税制問題の検討

## 11. 勤務医部

- (1)勤務医会員の抱える諸問題の検討
- (2)栃木県眼科手術談話会の開催
- (3)全国勤務医連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達

平成18年度 栃木県眼科医会収支予算

収入の部

費目	平成17年度 予算	平成18年度 予算	比較		備考
			増	減	
1 日眼医会費	21,000	21,000	—	—	
2 関プロ分担金	370,000	380,000	10,000	—	
3 栃眼医会費	2,700,000	2,800,000	100,000	—	
4 入会金	150,000	150,000	—	—	
5 補助金	100,000	100,000	—	—	
6 その他	50	50	—	—	
7 繰越金	1,403,479	1,895,618	492,139	—	
合計	4,694,529	5,346,668	602,139	—	

支出の部

費目	平成17年度 予算	平成18年度 予算	比較		備考
			増	減	
1 日眼医会費	21,000	21,000	—	—	
2 関プロ分担金	370,000	380,000	10,000	—	
3 事務通信費	800,000	800,000	—	—	
4 総会学会補助	820,000	800,000	—	20,000	
5 出張費	550,000	450,000	—	100,000	
6 会議費	550,000	700,000	150,000	—	
7 慶弔費	100,000	200,000	100,000	—	
8 予備費	50,000	50,000	—	—	
9 その他	100,000	100,000	—	—	
合計	3,361,000	3,501,000	140,000	—	

平成18年度 栃木県眼科医会医事対策費予算

収入の部

費目	平成17年度 予算	平成18年度 予算	比較		備考
			増	減	
1 対策費	2,650,000	2,650,000	—	—	
2 その他	65,000	65,000	—	—	日眼医より助成
3 繰越金	5,932,142	7,084,417	1,152,275	—	
合計	8,647,142	9,799,417	1,152,275	—	

支出の部

費目	平成17年度 予算	平成18年度 予算	比較		備考
			増	減	
1 事務通信費	1,000	2,000	1,000	—	
2 新聞広告費	1,500,000	1,500,000	—	—	
3 その他	250,000	250,000	—	—	目の愛護デー補助
合計	1,751,000	1,752,000	1,000	—	

平成18年度 栃木県眼科医会年会費

内訳	A 会員	B 会員	C 会員	準会員
関プロ会費	4,000円	2,000円	1,000円	—
栃眼医会費	32,000円	13,000円	3,000円	32,000円
医事対策費	40,000円	5,000円	—	40,000円
合計	76,000円	20,000円	4,000円	72,000円

平成18年度栃木県眼科医会会費納入のお願いが届き次第、お振込願います。

※ 自動振込機（ATM）からのお振込も可能ですのでご利用ください。

〔足利銀行 江曾島支店 普通預金3799666  
 栃木県眼科医会 会計 木村 純（トチギケンガンカイカイ カイケイ キムラ ジュン）〕

※ 尚、お振込の際、振込者氏名欄は所属病院名ではなく、個人名（フルネーム）にてお願い致します。



## 会長退任挨拶

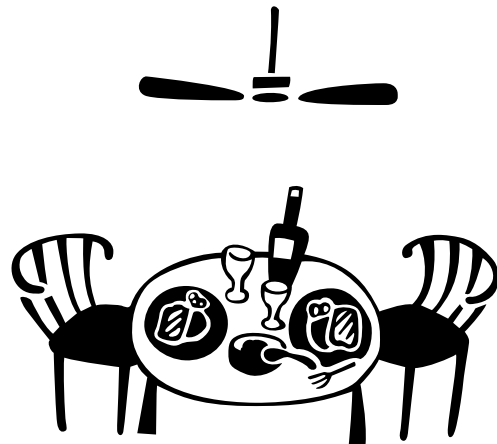
監事 稲葉 光 治 (宇都宮市)

平成15年会長を仰せつかり、3年間会員、役員の皆様を支えられ大過なく務めさせて頂きました。厚く御礼申し上げます。私事になりますが、2年程前より体調を崩し、日常診療も充分出来ず、満足の行く仕事が困難となり、昨年10月から稲葉眼科院長を甥の稲葉全郎に譲り、第一線から離れて居ります。

平成19年6月30日、7月1日には、宇都宮で関プロ学会が栃眼医担当で開催される事となりました。既に、準備委員会も3回開かれ、学会の開催も具体化して参りました。私の会長の任期は平成19年3月迄ですが、関プロ学会開催直前ですので、役員交替により、会務の流れに支障が無い様に、

今年3月に退任させて頂く事に致しました。幸に、宮下浩先生は宇都宮市医師会理事として大変ご多忙であるにも拘らず、会長をお引き受け下さいました。先生は栃眼医役員として永く御苦労下さり、経験も豊かですので、安心して今後をお任せ出来る方と確信して居ります。又早津尚夫先生には、私も一方ならぬ御援助を賜りましたが、引き続き事務局の会務をお引き受け下さる事となり、深く感謝申し上げます。

私も、顧問を仰せつかりましたので、健康の許す限り、会の為お役に立ちたいと思っております。今後の会の更なる発展をお祈り申し上げます。



## 第43回関東甲信越眼科学会準備状況

公衆衛生担当理事 原 裕 (大田原市)

### 第2回準備委員会

日時：平成18年2月15日(水) 午後7時

場所：宇都宮市医師会館

出席：稲葉会長、斎藤(武)、宮下副会長、木村、大久保(彰)、井上、吉沢(徹)、城山、苗加、原(裕)、旭、松島、上田理事、早津監事、柏瀬顧問 以上15名出席

(議題)

#### 1. 第1回準備委員会決定事項(宮下)

日程：平成19年6月30日(土)、7月1日(日)

会場：宇都宮市 ホテルニューイタヤ

第1日目に支部長会、連絡協議会、健保審査委員会、勤務委員会、懇親会

第2日目に学術講演、眼科医療従事者講習会  
ゴルフは6月30日(土) 日光カントリークラブ(仮予約)

観光は日光の予定

#### 2. 関プロ連絡協議会(H17年度第2回、3月5日(日) 横浜)での現在までの準備状況報告の件(宮下)

開催案

6月30日(土)

関プロ支部長会議 : 16:00~17:00

関プロ連絡協議会 : 17:00~18:30

関プロ健保審査委員会 : 17:00~18:30

関プロ勤務委員会 : 17:45~18:45

懇親会 : 18:45~20:45

7月1日(日)

学術講演会(9:00~12:00)

I 講師・演題 未定

II 〃

III 〃

眼科医療従事者講習会(9:00~12:00)

I 講師・演題 未定

II 〃

III 〃

ゴルフ：6月30日(土) 日光カントリークラブ

観光：7月1日(日)午後 世界遺産「日光の社寺」

### 3. 会費について(木村)

	事前登録	当日登録
医師	5,000円	7,000円
研修医	2,000円	3,000円
コメディカル	1,000円	1,000円
懇親会	医師	10,000円
	コメディカル	2,000円
観光	3,000円	

### 4. 予算について(木村)

別紙

### 5. 宿泊、観光業者の選定について

宇都宮市内のホテルをAランクから分けて選んでもらうようにする。

東武トラベルにお願いする。

### 6. ホテルとの打合せについて

各部門別会議の会場

懇親会場

学術講演会場

眼科医療従事者講習会会場

次回、ホテルにて現場を見学して決めていく。

### 7. 学術講演の講師、演題について(大久保)

7月1日(日) 学術2題(獨協医大、自治医大)

医療問題1題

### 8. 眼科医療従事者講習会の講師演題について

(井上)

7月1日(日) 3題(学術2題(獨協医大、自治医大)、接遇2題)

### 9. 第3回準備委員会の日程について

4月19日(水) ホテルニューイタヤにて

参天製薬、千寿製薬も参加してもらう

### 第3回準備委員会

日時：平成18年4月19日(水) 午後7時



場所：ホテル・ニューイタヤ

出席：稲葉会長、斎藤（武）、宮下副会長、木村、大久保、吉沢、城山、苗加、原（裕）、旭、松島、上田理事、早津監事、柏瀬顧問、（参天）大上、（千寿）森下 以上16名（議題）

**1. 第2回準備委員会決定事項の確認**（宮下）

日程：平成19年6月30日(土)、7月1日(日)

会場：宇都宮市 ホテルニューイタヤ

第1日目に支部長会、連絡協議会、健保審査委員会、勤務委員会、懇親会

第2日目に学術講演、眼科医療従事者講習会  
ゴルフは6月30日(土) 日光カントリークラブ  
観光は日光

6月30日(土) 時間帯 会場

関ブロ支部長会議：16：00～17：00

10人 ローブルーム（地下）

関ブロ連絡協議会：17：00～18：30

40人 櫻の間（4階）

関ブロ健保審査委員会：17：00～18：30

20人 3階 or 地下

関ブロ勤務委員会：17：45～18：45

20人 3階 or 地下

懇親会：18：45～20：45

→ 天平の間（3階）

7月1日(日)

学術講演会（9：00～12：00）

I 講師・演題 未定 天平の間（3階）

II 〃

III 〃

眼科医療従事者講習会（9：00～12：00）

桜の間（4階）

I 講師・演題 未定

II 〃

III 〃

ゴルフ：6月30日(土) 日光カントリークラブ

観光：7月1日(日) 午後世界遺産「日光の社寺」

**\*会費について**

	事前登録	当日登録
医師	5,000円	7,000円
研修医	2,000円	3,000円
コメディカル	1,000円	1,000円
懇親会	医師	10,000円
	コメディカル	2,000円
観光	3,000円	

**\*予算について**（木村） 別紙にて詳細

**2. 関ブロ連絡協議会**（H17年度第2回、H18.3.5(日)横浜）にて現在までの準備状況を報告（宮下）

議題1にて報告

**3. 準備委員会委員の業務分担、業務内容および今後タイムスケジュールについて**（宮下）

準備委員会委員業務分担（案）

（学会当日はさらに追加の予定）

総務	宮下、原（裕）、旭
経理	木村、福島
広報・案内プログラム	城山、苗加
宿泊	原（裕）、旭
ゴルフ	大久保、松島
支部長会議	宮下、原（裕）
連絡協議会	宮下、原（裕）、早津、柏瀬
健保審査委員会	斎藤、吉沢
勤務医委員会	上田
懇親会	松島、城山
学術講演	大久保、苗加、（大上）
眼科医療従事者講習会	井上、福島、（森下）
昼食	吉沢、旭
観光	旭、吉沢

業務内容とタイムスケジュールについては第34回のときの資料を参考。

**4. 交付金、補助金、協賛金の申請時期と方法について**

7月に、栃木県・宇都宮市に

9月に、栃木県・宇都宮市医師会に

**5. 学術講演の講師3名の人選について**

①自治医大 茨木信博教授

②獨協医大 妹尾 正教授

③日本眼科医会副会長 伊藤信一先生

**6. 眼科医療従事者講習会の講師3名の人選について**

①学術講演 講師 獨協医大 松島博之先生

②眼科医療経営等の講演  
講師 (株)リスクマネジメント・ラボラトリー 取締役 安川 聡先生

③視覚障害者からの講演を予定しています。  
交渉中の順位です。

1) パラリンピックアトランタノシドニー大会競泳金メダリスト  
河合 純一先生（中学校の先生）

2) 緑内障フレンドネットワーク  
代表 柿澤 映子先生  
（御自身が緑内障の患者さんです。）

3) ささえあい医療人権センターCOML  
代表 辻本 好子先生  
（視覚障害者では、ありません。）

**7. 各会議の会場チェックについて**

ホテル・ニューイタヤ平面図参照（14. その他にて記載）

**8. 懇親会のアトラクション、福引きについて**

宇高OBバリトン歌手小林さんに依頼（30分）  
確認中。

**9. 宿泊について**（旭）

東武トラベル(株)にお願いする。別紙あり。

**10. 観光について**

東武トラベルに依頼。

**11. ゴルフについて**

東武トラベルに依頼。

**12. 第42回関ブロ学会（水戸）の下見参加者について**

稲葉会長、斎藤（武）、宮下副会長、大久保、吉沢、松島、上田理事、柏瀬顧問 以上8名参加予定

**13. 第4回準備委員会の日程について**

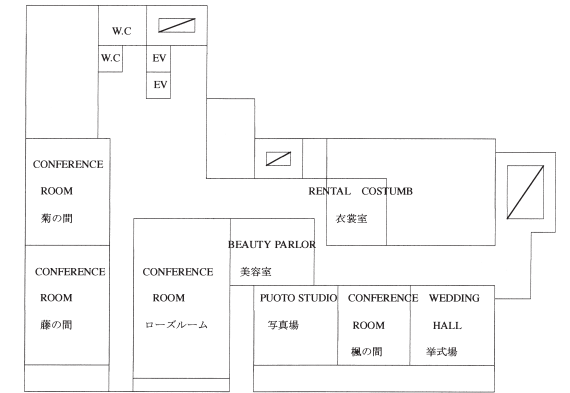
6月21日(水)に開催予定。

今回は、東武トラベル(株)参加予定

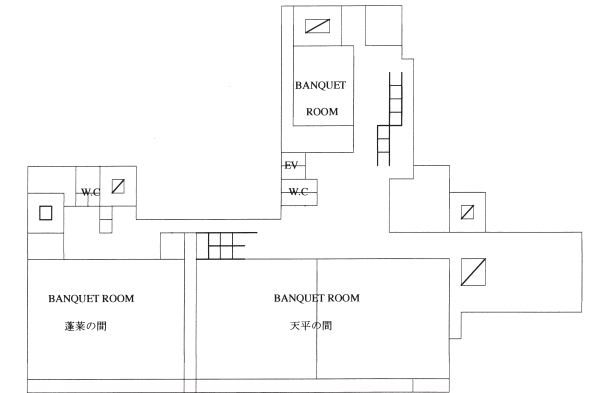
**14. その他**

ホテルニューイタヤ平面図

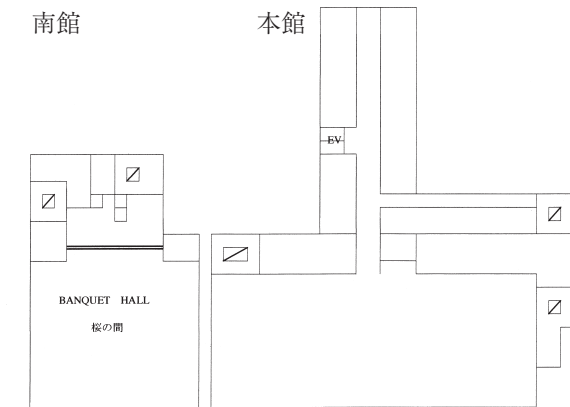
地下平面図



3階平面図



4階平面図



# 第43回関東甲信越眼科学会予算案

## 収入の部

区 分	予算額	備 考	第34回 予算額	第34回 決算額
学会登録料	1,270,000	A B 5,000×200名 C 2,000×20名 従 1,000×230名	2,750,000	3,568,000
懇親会費	1,500,000	10,000×150名	150,000	255,000
観光参加費	150,000	3,000×50名	150,000	255,000
交付金補助金	3,150,000	関プロ 1,650,000 日本眼科学会 100,000 日本眼科医会ブロック講習会補助 150,000 勤務医委員会補助 400,000 医療従事者講習会補助 400,000 栃木県 200,000 宇都宮市 100,000 栃木県医師会 100,000 宇都宮市医師会 50,000	2,250,000	2,250,000
寄付金その他	2,400,000	メーカー寄付金 1,800,000 プログラム広告料 500,000 その他 100,000	2,000,000	2,545,470
合計	8,470,000		9,250,000	10,763,470

## 支出の部

区 分	予算額	備 考	第34回 予算額	第34回 決算額
会場および諸施設 使用料	500,000	イタヤ その他	1,200,000	503,330
講師謝礼	750,000	学術講演 医療従事者講習会	750,000	725,000
会議費	1,200,000	準備委員会費 部門別会議費	1,000,000	1,189,966
懇親会費	3,500,000	イタヤ イベント賞品 演奏	3,000,000	3,641,940
観光費	500,000	東武トラベル その他	500,000	421,450
ゴルフ費	230,000	賞品、トロフィー パーティー	300,000	219,825
当日昼食代	150,000	イタヤ	100,000	130,700
印刷費	500,000	鈴木印刷、プログラム・胸章ほか	500,000	456,750
通信事務費	850,000	通信、印刷、コピー	600,000	798,240
交通費	50,000		200,000	0
人件費および雑費	240,000	招待者、講師宿泊代 リフレッシュコーナー 写真代	1,100,000	224,046
合計	8,470,000		9,250,000	8,311,247



## 保 険 審 査 よ り

社保審査委員 千葉 桂 三 (獨協医大)

5月28日に全国社保国保連絡協議会が開催されましたが、公式の見解は6月5日以降になるとのことでした。そのため、今回の点数改正、特にCLに関わる事項に関しては、別冊として会員の先生にお配りすることにします。この会報とどちらが早いかわかりませんが、よろしくお願ひします。そうとは言え何も書かないわけには行かないので、5月の分の一次審査、再審査で気になった事項をいくつか書いてみます。

- ① アレルギー結膜炎と眼圧で2回/月の請求で、ステロイド点眼のコメントがないものが、一次、再審査とも多く見られました。院外処方の場合レセプトに薬品名は現れませんので、コメントを忘れないようにお願いします。
- ② 眼処置を請求される場合に、使用した薬品名とその費用を細かく請求する施設があります。請求すること自体は問題ないのですが、画一的で診断名と一致しない場合が見られます。抗生剤、ステロイド、角膜保護剤などを画一的に投与し、診断名は結膜炎、アレルギー性結膜炎、角膜乾燥症などが単独である場合、一部が適応外になります。また、だからといって大半の症例に画一的な診断名を記載するのも問題です。
- ③ 処置については、特別な処置（結膜異物など）と眼処置は同一眼でも請求できます。しかし、本年の改正で睫毛抜去（少数）のみは眼処置が含まれ、眼処置との併せての請求できませんのでご注意ください（他眼で適切な診断名があれば別ですが、判るようにしてください）。
- ④ 負荷調節をほぼすべての眼鏡処方時に請求する施設があります。本来調節異常際に行う検査で、調節麻痺・不全などがあればまったく問題はありせん。しかし、65歳以上や人工水晶体眼などでは請求できません。また、この検査は何らかの負荷をかけて調節近点を測定した時に請求できるのであり、メガネ処方時でも何らか

の理由で調節近点を測定した場合に請求ください。本年度の全国社保国保連絡協議会でも話題となっておりますので、資料が手に入りましたらお届けします。

- ⑤ 角膜曲率半径の請求は屈折異常の初診日、眼内レンズ挿入の術前検査と術後最初に測定した時で、その場合はコメントは不要ですが、それ以外のときは必要であった理由をお書きください。また初診の次の月に手術をするような場合に、手術月に術前検査として改めて請求すると、縦覧した場合再審査請求されます。
- ⑥ 4月のCL関係の請求は、一部の施設ではまだ問題があるようですが、多くの先生方が理解してくれているようで安心しました。しかし気がかりな点もありました。一番気がかりなのは、CL検査料の請求やCL中止がまったくない施設が数箇所あったことです。CL既装用者がまったく受診していないことは考えられません。他施設での処方も既装用者となりますので、CL検査料除外疾患（糖尿病網膜症や緑内障、手術前後など：詳しくは別配の資料を参考）なのか、CL中止しているのかよく判断の上ご請求ください。全国社保国保連絡協議会で調べたところ、このような施設に関しては行政の対応を求めるという県が33県ありました。栃木県ではまだそこまではせず、文書注意などで改善を求めます。また、同一月内に眼鏡も処方した場合は必ず双方の処方日を明記ください。
- ⑦ 矯正視力の請求は眼鏡の有り無しで1と2に区別されましたので、可能な限りその様式でご請求ください。ある施設では矯正視力（眼鏡処方なし）、またある施設では矯正視力（眼鏡処方あり）、またある施設では眼鏡処方なしが屈折検査、眼鏡処方ありが矯正視力（眼鏡処方あり）などばらばらです。どうぞよろしくお願ひします。

5月31日 千葉 桂三



## 平成17年度栃眼医忘年会開催報告

福祉担当理事 **松島雄二** (佐野市)

平成17年度の栃木県眼科医会の忘年会は12月9日(金)、宇都宮のホテルニューイタヤで行われた。出席者は別表の如く総勢35名だった。

宮下先生の司会で、まずは稲葉会長の挨拶のあと自治医大の水流教授、そして本年度をもって退任される獨協医大の小原教授のご挨拶をいただき、次いで本年度新たに入会され宇都宮の稲葉眼科に



院長として来られた稲葉全郎先生と自治医大眼科に入局された国松志保先生が紹介された。両先生の今後のご活躍が期待される。

昨年は立席での忘年会だったが、自分の席が確保される座席の方が好評だったので今年は元にもどし、今迄通りの方式で行った。今年は開業医の先生方の出席が悪かったが、両大学の先生方が大勢来られて大変いぎやかだった。

例年ではその後順に自己紹介をして、今やっていることや趣味のこと、あるいは来年の抱負など語っていただいていたが、今年は新企画として宮下先生のお世話でボランティア団体「マジックホップの会」による手品の余興をやっていただいた。素人とは思えないすばらしい技を数人の方々から次で行うパフォーマンスに場は大変盛り上がった。そのため時間もあっという間に過ぎ、最後に斉藤武久副会長のメめの音頭でお開きとなった。

平成17年12月9日(金)

ホテルニューイタヤ (敬称略)

旭 英 幸	宇都宮市	吉 沢 浩 子	鹿 沼 市	小 原 喜 隆	獨協医大
稲 葉 光 治	宇都宮市	斎 藤 信一郎	小 山 市	妹 尾 正	獨協医大
稲 葉 全 郎	宇都宮市	松 島 雄 二	佐 野 市	千 葉 桂 三	獨協医大
大久保 彰	宇都宮市	柏 瀬 宗 弘	足 利 市	松 島 博 之	獨協医大
金 子 禮 子	宇都宮市	中 静 隆	足 利 市	大 沼 修	獨協医大
木 村 純	宇都宮市	原 裕	大 田 原 市	菊 池 通 晴	獨協医大
久保田 芳美	宇都宮市	斎 藤 武 久	那 須 塩 原 市	松 井 英 一 郎	獨協医大
早 津 尚 夫	宇都宮市	原 正	真 岡 市	小 出 義 博	獨協医大
早 津 宏 夫	宇都宮市			野 堀 秀 穂	獨協医大
原 孜	宇都宮市	水 流 忠 彦	自 治 医 大	和 泉 田 真 作	獨協医大
福 島 一 哉	宇都宮市	牧 野 伸 二	自 治 医 大	石 丸 慎 平	獨協医大
宮 下 浩	宇都宮市	国 松 志 保	自 治 医 大		
吉 沢 徹	鹿 沼 市			参加ドクター	35名

## 平成17年度関ブロ会報編集委員会報告

広報担当理事 **城山力一** (壬生町)

日 時：平成18年2月5日(日)12時～14時

場 所：新横浜プリンスホテル

出席者：神奈川県 相沢克夫 (関ブロ世話人)

種田芳郎 (関ブロ運営部担当理事)

井出昌晶 (関ブロ会計担当理事)

小口和久 (編集委員長)

茨城県 中村悦子 (編集委員)

栃木県 城山力一 (編集委員)

群馬県 馬場敏生 (編集委員)

千葉県 田村雅弘 (編集委員)

山梨県 荻原高士 (編集委員)

長野県 三輪正人 (編集委員)

新潟県 高橋和也 (編集委員)

議題：関ブロ会報35号の編集について

発行予定日 平成18年4月下旬～5月上旬

原稿締切日 平成18年2月末日

第42回関東甲信越眼科学会が平成18年6月3日、4日に茨城県で開催される。担当県である茨城県が、表紙、巻頭挨拶および関東甲信越眼科学会の講演抄録を担当する。

第41回関東甲信越眼科学会の印象記、各委員会報告は千葉県が担当する。

日眼医報告を高野繁常任理事(神奈川県)、目の健康講座を埼玉県が担当する。

会長のことば、各県だより及び随筆は各県とも提出する。掲載順序は、日眼医の名簿順とする。すなわち茨城・栃木・群馬・千葉・埼玉・山梨・長野・新潟・神奈川の順とする。

栃木県からは、会長のことば：稲葉光治先生、各県だより：宮下浩先生、随筆：柏瀬宗弘先生の「中国西域の旅」、編集子囁言：城山力一を提出しました。また、告知板に第43回関東甲信越眼科学会の開催のお知らせとプログラムを掲載した。



## 第63回 枋眼医親睦ゴルフコンペ

茨木 信博 (自治医科大学)

“良き同伴競技者と共に楽しいゴルフが出来た結果、優勝することができました”と型通りの挨拶をさせていただくことができました。

“優勝のため、日頃より練習を欠かさず、当日もベストコンディションで臨みました”なーんていうのは全くのウソで、日頃ゴルフの練習はほとんどせず、コースで勤を取り戻すころには終了していることの繰り返し、月1ゴルファーじゃなく3ヶ月に1度の稀ゴルファー。特にこのコンペは、前夜に自治医大OBの先生との恒例の飲み会となっ



ており、ゴルフ当日午前中は全く頭が寝ているというか、ガンガン痛いというか。

ま、真剣にゴルフは出来ていませんが、いろんな意味で親睦や、リラックスできるので、楽しい会であります。優勝してみると、やはりうれしいものですね。これを機会にもう少し真剣にゴルフする？ということで、ゴルファーの方からのお誘いお待ちしております。



### ゴルフコンペ成績表

平成17年10月23日  
太平洋アソシエイツ・ヒルクレストコース

	NAME	OUT	IN	グロス	HDCP	NET		NAME	OUT	IN	グロス	HDCP	NET
1	茨木信博	49	46	95	19	76	7	大久保彰	51	46	97	17	80
2	高橋佳二	45	44	89	12	77	8	稲葉全郎	48	47	95	13	82
3	森 純一	45	48	93	15	78	9	柏瀬宗弘	52	52	104	21	83
4	斎藤静子	47	50	97	18	79	10	松島雄二	42	49	91	7	84
5	石崎道治	42	44	86	6	80	11	松島優子	57	52	109	25	84
6	斎藤武久	41	47	88	8	80	12						

## 第64回 枋眼医親睦ゴルフコンペ

田口 太郎 (宇都宮市)

古稀を過ぎて喜寿も間近なこの頃のゴルフは、できるだけパートナーの先生方の御迷惑にならぬよう、足を引っ張らぬよう心掛け、まだプレーができる喜びを感じ乍ら参加しております。

今回は二度と無いと思っていた優勝に家内共々びっくり致しております。芳賀カントリーは初心者頃1~2回行った覚えがありますが、全くの初めてのコースと同じ、どこに池があるのかも分



からず、池ポチャをしながらも、自分では満足した一日でした。偏に良きパートナーのお陰と感謝致しております。

- 結果を振り返りますと、運が良すぎた優勝は
- 1) 新HD C P (沢山頂戴しました)
  - 2) 強風のため、飛ばし屋さん苦勞された?
  - 3) 赤マークからプレーされるライバルの県南の先生方が揃って欠場。(次回から、松島、斎藤武久先生が権利を取得される?)
  - 4) 松島先生の御夫人から、沢山のゴルフ場のグリーンマーカーを頂戴して、大いに感謝、気分昂揚した。

今度こそ本当に最後の優勝をドラコン (赤)、ニヤピン (赤マーク) 賞を併せて頂き、幸せ一杯のコンペでした。今後も可能な限り、お仲間に入れて頂きたく、何卒宜しくお願い致します。

### ゴルフコンペ成績表

平成18年4月9日  
芳賀カントリークラブ

	NAME	西	東	グロス	HDCP	NET		NAME	西	東	グロス	HDCP	NET
1	田口太郎	50	52	102	28	74	7	斎藤武久	49	48	97	12	85
2	松島雄二	45	44	89	13	76	8	斎藤信一郎	42	46	88	1	87
3	高橋佳二	46	48	94	15	79	9	松島優子	58	59	117	29	88
4	大久保彰	52	43	95	16	79	10	森 純一	56	56	112	20	92
5	斎藤静子	52	51	103	22	81	11	茨木信博	54	58	112	19	93
6	石崎道治	51	41	92	9	83	12						

ベストグロス：斎藤 (信)

ニアピン：田口、高橋、斎藤 (信)

ドラコン：斎藤 (信) (2つ)、田口、斎藤 (静)

## 随 筆



### 「サクランボと蝶々」

亀掛川 みどり (宇都宮市)

他人様に誇れる趣味もなく、日々の仕事に明け暮れる毎日。そんな私ですのエッセイと言われても、はたと困ってしまったのですが、ふと見上げた壁にあったその絵を見て、「あ、この絵のことを書こうかしら」と思い筆を取りました。

十数年前、どうしても気に入ってしまい、思い切って購入した銅板画2枚。2つとも手のひらに入ってしまうほどの、まさに記念切手といってもいいくらいの小さな作品です。

ひとつは黒い背景に真っ赤なサクランボ(5.7cm×7.6cm)。もうひとつは白菜にとまった蝶(5.7cm×14.8cm)を描いた版画です。

漆黒の闇に浮き立つサクランボは、本当に単純な絵柄なのですが、この赤い色が本当に微妙で繊細なタッチで、じっと見ていると何とも心に染みってくる色です。

蝶のほうも、バックは漆黒。闇に浮き出た白菜の葉に羽をいっぱい広げる蝶が一匹だけ描かれています。複雑な濃淡のあるオレンジ色の蝶の姿は、見ているこちらも闇に引き込まれそうな、それでいて、心をいやしてくれるそんな作品です。

作者はミュゼ浜口陽三さん。

実はこの方、テレビCMでも有名な「ヤマサ醤油」の御曹司なんです。先々代の社長の三男に生まれ、芸大からパリに渡った氏は、独学で「メゾチント」という銅板画の技法を習得します。パリに渡ったのは1930年代。祖国が太平洋戦争へと突き進んでいる時代に、彼が目指したものは何だったのだろうか、気になり、先日、彼の作品を展示している東京の美術館に行ってみることにしま

した。

安産の神様で知られる水天宮からほど近い場所にたずむ美術館。すぐ近くにはヤマサ醤油の本社もあります。

一階はガラス張りでカフェもあり、中央の螺旋階段を下りた地階にも版画の原板や道具などが展示されています。

家にある2枚の絵を見ていただけでは、どうしてもこのような絵ができるのか想像もできませんでしたが、彼が実際に使った道具を見て、改めてその気の遠くなるような作業に驚きました。

綺麗に磨き上げた銅板に無数の傷をつけ、それを版画にしているわけですが、どうしたらあの繊細な色の変化が出せるのかは、これはもう、素人には全く分からない、まさに神業です。

スイカにアスパラガス、貝殻、海星(ひとで)、てんとう虫、クルミ、レモン…。およそ60点の作品をゆっくりとながめることができ、本当に満足でした。

宇都宮に戻って家に帰ると、壁にかかった小さなサクランボと蝶々。美術館の洒落た外観を思えば、恥ずかしいほど貧相な我が家の背景ですが、それでもサクランボと蝶々はいつにもまして心を安らげてくれました。

心をこめて描く一枚だけの絵も、大変いいものですが、版画もいいものですね。

幸せを刷って増やして、分けてくれたようで、これからもこの2つの絵に愛情を注いでいきたいと思っています。



## 自治医大の近況

自治医大眼科医局長 青木真祐

平素より、栃木県眼科医会の先生方にはたいへんお世話になりありがとうございます。

当科の近況をご報告させていただきます。

当科では、水流忠彦講座教授のもと4月より眼科科長に茨木信博教授、副科長に小幡博人講師、外来医長に牧野伸二講師、病棟医長に国松志保講師、医局長に青木真祐との体制となりました。その他現在、6名の教員が在籍しております。さらに今年度より2年間のローテーション研修を終え新たに檜垣正彦先生が加わりました。

当教室の方向性として国内外に通用する眼科専門医の育成を行うこと、研究面では臨床研究として、手術に代表される外科的治療法に限らず、新治療法の開発、発展を中心に、さらに臨床から生まれた疑問に対する基礎的研究を積極的に行うことを目標としております。

さて、全国的にみても大学病院の人手不足は依然変わらず、当科も医局員の募集を常におこなっております。卒後教育体制も充実させており、具体的には、外来・病棟では新人医局員1人に対し指導医1人が熱心に指導し、診察・検査・処置など実践的なことを研修し、約半年後からは指導医の立ち会いのもと手術指導を受けます。豚眼を用

いた白内障手術も数多く研修することで白内障手術習得を目指します。その他、外来手術やレーザー治療なども数多く研修していきます。短期間でさまざまなことが研修でき、臨床能力を向上させることが可能であるのが自治医大眼科で研修することの大きな利点であると考えております。もしお近くに、当院での臨床研修等に興味をお持ちの先生をご存知でしたらお気軽に眼科医局(医局長：青木真祐)にご一報頂ければ幸いです。いつでもご相談させていただきます。

なお、自治医科大学病院では眼科以外の科で4月より電子カルテが導入されました。当科では9月導入をめどに予定しておりますが、導入当初は混乱が予想され現在の患者数に対応するのは厳しい状況と思われます。そのため以前と比べても積極的に逆紹介をお願いする状況となる可能性があります。その際には何卒よろしくご依頼申し上げます。

医局員一同、これまでに増して日々の診療に一丸となってあたりたいと考えておりますので、今後とも御指導のほどよろしくご依頼申し上げます。



## 新規開業のご挨拶

金子眼科 金子 禮子 (宇都宮市)

平成17年10月に宇都宮市鶴田地区の下荒針町(鹿沼街道の育成牧場そば)に「いまわり眼科」の患者さんを引き継いで開業させていただきました。東京女子医大卒業後、約10年間、昭和大学の眼科学教室に在籍しました。その後、稲葉眼科に約13年間勤務させていただきました。

実質的な開業準備は約10日間で、院内の改装、不要となった家具の処分、機械の搬入、看板作成、院内ポスターの作成、挨拶状作成、レセコンの設定、職員研修、近隣の先生方30軒ほど挨拶回り、医師会の面接、薬の発注、ホームページの作成、オリジナルカルテ用紙や薬袋の作成などをしまし

た。バックにコンサルタント会社が付いていれば楽であったのかもしれませんが、無知な私でも無事に開業できたのは、見るに見かねて協力してくださった大勢の方々(優秀な業者さん、優秀なスタッフ、諸先生方)のご協力やアドバイスがあったからと感謝しております。

開業医として、少しずつ患者さんとの信頼関係を築くことができるよう努力する所存しております。大学の先生方や諸先生方には、難症例や白内障手術などでお世話になり大変感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

## 新入会員自己紹介



稲葉 全郎  
(稲葉眼科)

宇都宮市医師会会長、栃木県眼科医会会長を務めていた稲葉六郎の孫の、稲葉全郎です。祖父の母校の東大眼科で研修及び研究致しましたが、履歴は、{検索 稲葉眼科}あるいは{検索 稲葉全郎}をご覧ください。東京都千代田区五番町に住み、浦安市の駅前が開業しておりましたが、叔父稲葉光治の跡を継ぐ事になり帰って参りました。東大法学部を出た父の弟が衆議院議員をやっていた事もあり、ある先生に保険医協会の理事を頼まれ、その気になって千葉県保険医協会理事を20年務め、また、祖父の名前は千葉県にまで鳴り

響いていたせいか、千葉県眼科医会の常任理事も頼まれて務めておりました。さて帰ってくると、宇都宮の市内は寂れていて老人が多く、浦島太郎のような気がします。医科大学も二つ出来ており、後輩だか先輩だか不明の先生方が多数居られ、時代の変化を感じました。こちらには友人が居らず、孤独ですが、05年10月からの成果としては、東京都射撃選手権大会に優勝し2005年度の(エアピストル)のチャンピオンになり、また、宇都宮市医師会ゴルフコンペでは、ベストグロスと準優勝を頂きました。新しい知識と患者紹介先の下調べもあり、獨協医大と自治医大のカンファレンスにも参加させて頂いております。以前は、東大眼科の朝のカンファレンスに出席しておりましたが、遠方となりましたので、両医大の先生方にも、宜しくご指導お願い申し上げます。有り難うございます、感謝します。



国松 志保  
(自治医科大学眼科)

はじめまして。  
この度、栃木県眼科医会に入会させていただいた国松志保と申します。

平成5年に千葉大学を卒業後、東京大学医学部眼科学教室に入局しました。東大病院にて研修後、国保旭中央病院、日本医科大学附属病院眼科に勤務し、平成10年より、再び東大病院に戻りました。大学病院では、日常業務に加え、緑内障の臨床研究、ロービジョン外来の立ち上げ、研修医の指導などに忙しい日々でしたが、尊敬できる上司、ゆかいな同僚に恵まれ、充実した日々でもありました。

平成17年11月より、自治医科大学附属病院眼科学講座の講師として、着任いたしました。緑内障チームのトップとして、今までの経験をぜひ生かしていきたいと張り切っています。また、平成18年4月には、ロービジョン外来も立ち上げることができました。栃木県内にロービジョンケアの輪が少しでも広がっていけば、こんなに嬉しいことはありません。

おいしいものを食べに行くのが好きなのですが、お料理も大好きで、旅先でもお料理教室があれば参加しています。今後は、栃木県の郷土料理をおぼえたい、というのも、ひそかな目標です。どうぞよろしく願いいたします。



横山 真介  
(佐野厚生総合病院眼科)

この度、栃木県眼科医会に入会させていただきました横山真介と申します。

平成13年に慶應義塾大学を卒業、同年慶應義塾大学眼科学教室に入局しました。研修医1年目の年に独立行政法人国立病院機構東京医療センターに半年勤務し、慶應大学病院にて研修の後、平成15年3月より慶應義塾大学伊勢慶應病院に勤務、平成16年4月より現在の佐野厚生総合病院眼科に勤務しております。

この2年間でも、すでに多くの患者様に関しまして県内各病院の先生方に大変お世話になり、またご迷惑もお掛けしていることと思います。この場をお借りしまして先生方に感謝の気持ちを申し上げますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



## お知らせとお願い

### 平成18年度 医療機器販売業の管理者に対する継続研修の案内 栃木県眼科医会

拝啓 コンタクトレンズ販売・修理に携わる皆様におかれましては、平成18年度から営業所の販売管理者の継続研修講習を法で規定されております。

当栃木県眼科医会では、この継続研修につきましては第14条第2項における研修を施行規則第168条及び第175条2項に基づく医療機器販売等の営業所の管理者に対する研修及び施行規則194条に基づく医療機器修理業の責任技術者に対するものであります。

以下の実施要綱で行いますので受講申し込みいただきますようご案内いたします。

敬具

#### 実施要綱

##### 目的

- 1、薬事法施行規則第168条、第175条に基づく医療機器販売等の研修
- 2、薬事法施行規則第194条に基づく医療機器修理業に対する研修

#### 受講対象者

平成18年3月31日の時点で「高度管理医療機器等販売業」の許可を得ている管理者

#### 研修内容

- 1、薬事法その他の法令に関するもの、  
講師 栃木県福祉部薬務課
- 2、コンタクトレンズ不具合について、  
講師 コンタクトレンズ専門医

#### 開催日 開催地

平成18年12月3日(日) 午後2時～4時  
とちぎ健康の森 講堂

#### 受講料

3,150円(消費税こみ)

#### 受付期間

10月1日～10月31日  
修了書の交付、当日受講票と交換  
その他詳細は次号にて  
(旭 英幸)

## 日眼医デジタル通信の転送を希望される方へ

昨年からはEメールを活用した日本眼科医会本部支部間のデジタル通信の構築が進められております。

現在、不定期に日眼医からEメールで栃眼医事務局および会長、副会長、広報に情報が送られております。この情報の閲覧を希望される栃眼医会員の方は下記のメールアドレスにご自分のメールアドレスを登録して下さい。登録いただければ、日眼医からのデジタル通信を受け次第、転送いたします。

totigani\_kouhou@ybb.ne.jp  
栃眼医 広報担当 城山 力一  
(城山 力一)

## ASCRSで松島博之先生が受賞

本年3月にサンフランシスコで開催された米国白内障・屈折矯正手術学会(American Society of Cataract and Refractive Surgery, ASCRS)に於いて当会会員の松島博之先生がBest Presentation of Sessionを受賞されました。ASCRSは米国で開催地を変えながら行われる世界的に大きな眼科学会の一つで、毎年話題に上るFilm Festivalの他一般講演と

デジタルポスターのセッションがあります。今年は総数1,400題以上の演題登録があり、その中で、Best Presentation of Sessionを受賞されたことは、栃木県眼科医会に取りましても誠に名誉なことと思います。今後の先生のご活躍を期待し、会員の皆様にご報告いたします。

(城山 力一)



## ASCRSのBest Presentation of Sessionを受賞して

獨協医科眼科 松島博之

ASCRS (American Society of Cataract and Refractive Surgery) は毎年アメリカで開催地を変更しながら行われる大きな白内障および屈折矯正手術学会で今年で29回目を迎えました。今年は西海岸の坂の多いウォーターフロント、カルフォルニア州サンフランシスコで開催されました。

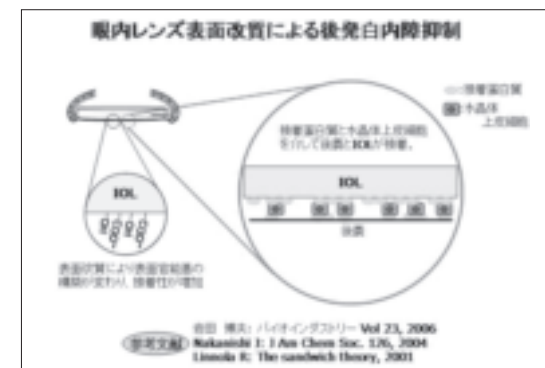
ASCRSと言えばFilm Festivalが有名で、宇都宮の原孜先生が毎年のように受賞されることで皆様ご存知だと思います。今年も原先生は眼内レンズ部門の2位(Runner-Up)を受賞され、毎年受賞される常日頃の努力に尊敬の念を抱いております。今回、私はASCRSの一般口演に応募しました。Film Festivalに比べると地味ですが、一般口演にも各セッションの1位を決めるセレモニーがあり、「Cataract IOLs: Materials, Designs, PCO」のセッションで幸運にもBest Presentation of Sessionを受賞することが出来ました。

今回報告したのは、「New Surface Modification of IOLs to Prevent PCO by Increasing Adhesion with the Posterior Capsule」で、眼内レンズ表面を改質することにより、後発白内障を抑制するという内容です。近年の光学部シャープエッジ形状をもつ眼内レンズの開発で、後発白内障の発生頻度は減少してきました。しかし、いまだに後発白内障は5年で20%前後の発症率が報告されており、シャープ



エッジ形状だけでは後発白内障抑制は不十分と考えています。また、これから非球面や調節力を有する眼内レンズが出てくると思いますが、必ず後発白内障が障害となってきます。そこで、眼内レンズ表面に近紫外線と滅菌線を照射(UV/Ozone処理)することにより、レンズ表面に活性種を発生させ、眼内レンズ表面の改質をし、水晶体後囊と眼内レンズの接着性を高めて、白内障術後に水晶体上皮細胞が眼内レンズと後囊の間に増殖しないようにし、後発白内障を抑制するという発想を考え、研究してきました。実際に家兎を使用して実験を行うと明らかに後発白内障の発生が抑制され、今後各種眼内レンズに応用できる可能性があります。

今回の受賞は2004年のドラッグデリバリー眼内レンズに続く2回目の受賞で、今回も受賞できたことで獨協医大の研究レベルも国際的に認められるレベルにまで上がってきていると喜んでおります。これも小原前教授の指導のもと皆でコツコツ積み上げてきた結果であり、今後も妹尾教授を中心とした獨協医大眼科学教室が評価されるように、更に精進していきたいと思っております。今後とも栃木県眼科医会の皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。



## 会務日誌 (平成17年11月～平成18年4月)

### 平成17年

#### 11月6日(日)

- 日眼医全国勤務医連絡協議会 (東京グランドホテル) 上田出席

#### 11月8日(火)

- 平成17年度第2回栃木県社保国保審査委員連絡会 (宇都宮市医師会館) 千葉、斎藤 (武)、小暮、水流、亀卦川、吉沢出席

#### 11月16日(水)

- 第4回栃眼医理事会 (宇都宮市医師会館) 稲葉、宮下、木村、大久保、吉沢、城山、苗加、原 (裕)、旭、松島、上田、福島、小幡、妹尾、亀卦川、浅原、宮沢、斎藤 (春)、早津、原 (孜)、柏瀬、茨木 22名出席

#### 11月18日(金)

- 第50回栃木県眼科集談会 (宇都宮市医師会館) 一般講演：7題 特別講演：獨協医大眼科高橋佳二講師 演題「涙道疾患への対応」 78名出席

#### 11月27日(日)

- 第45回栃木県総合医学会 (とちぎ健康の森) 眼科研究発表： 獨協医大眼科千葉桂三講師 「栃木県における角膜移植の現状」

#### 12月10日(金)

- 栃眼医忘年会 (ホテルニューイタヤ) 35名出席

### 12月

- 千寿製薬「銀海」新風土記 一栃木県眼科医会 完成

### 平成18年

#### 1月10日(火)

- 栃眼医会報第35号完成配布

#### 1月13日(金)

- 第34回栃眼医研究会 (ノバルティスファーマ、チバビジョンと共催、宇都宮グランドホテル) 講師および演題
  1. 糸井眼科院長 糸井素純先生 「シリコンハイドロゲルレンズの最新臨床評価」
  2. 日大駿河台病院眼科教授 湯沢美都子先生 「加齢黄斑変性症の最新の診断と治療」 60名出席

#### 1月18日(水)

- 第5回栃眼医理事会 (宇都宮市医師会館) 稲葉、斎藤 (武)、宮下、木村、大久保、井上、吉沢、城山、苗加、原 (裕)、旭、松島、上田、牧野、千葉、亀卦川、浅原、宮沢、斎藤 (春)、早津、原 (孜)、田口 22名出席

#### 1月22日(日)

- 第28回日眼医眼科コメディカル講習会開講 (関東6県合同開催、帝京大) 当県より26名受講

#### 1月29日(日)

- 日眼医代議員会総務経理合同常任委員会 (東京グランドホテル) 宮下出席

#### 2月1日(水)

- 長野県眼科医会長宮沢文明先生逝去 (58才) 2月12日(日)の告別式に原 (裕) 出席

#### 2月5日(日)

- 関プロ会報編集委員会 (新横浜プリンスホテル) 城山出席

#### 2月9日(木)

- 栃眼医総務部会 (ホテル丸治) 稲葉、斎藤 (武)、宮下、原 (裕)、木村、早津出席

#### 2月15日(水)

- 第2回関プロ学会準備委員会 (宇都宮市医師会館) 稲葉、斎藤 (武)、宮下、木村、大久保 (彰)、井上、吉沢 (徹)、城山、苗加、原 (裕)、旭、松島、上田、早津、柏瀬 15名出席

#### 2月24日(金)

- 第16回下野眼科談話会 (獨協医大、萬有製薬共催、当会後援、小山グランドホテル) 一般講演：5題 特別講演： 大木眼科院長大木孝太郎先生 「白内障手術、現在の到達点と近未来」

#### 3月5日(日)

- 平成17年度第2回関プロ支部長会、関プロ連絡協議会 (ホテルキャメロットジャパン横浜) 稲葉、宮下、早津、柏瀬出席

#### 3月10日(金)

- 第13回栃木眼科セミナー (自治医大、興和新薬共催、当会後援、小山グランドホテル) 講演および演題 東京大学眼科助教授 天野史郎先生 「角膜再生医療」

#### 3月11日(土)

- 獨協医大眼科小原喜隆教授退任祝賀パーティ (宇都宮東武ホテルグランデ)

#### 3月15日(水)

- 第6回栃眼医理事会 (宇都宮市医師会館) 稲葉、斎藤 (武)、宮下、木村、大久保、井

- 上、城山、苗加、原 (裕)、旭、松島、福島、小幡、千葉、浅原、斎藤 (春)、早津、柏瀬、田口 19名出席

#### 4月1日(土)～2日(日)

- 平成18年度第1回日眼医定例代議員会、定例総会 (新高輪プリンスホテル) 宮下出席

#### 4月7日(金)

- 診療報酬点数改定説明会 (宇都宮市医師会館) 43名出席

#### 4月9日(日)

- 第64回栃眼医親睦ゴルフコンペ (佐野カントリークラブ) 11名参加 優勝：田口 準優勝：松島 (雄)

#### 4月12日(水)

- 栃木県アイバンク理事長 麻生貞市氏逝去 (68才) 16日(日)の告別式に稲葉出席

#### 4月19日(水)

- 第3回関プロ学会準備委員会 (ホテルニューイタヤ) 稲葉、斎藤 (武)、宮下、木村、大久保 (彰)、吉沢 (徹)、城山、苗加、原 (裕)、旭、松島、上田、早津、柏瀬、大上、森下 16名出席

#### 4月23日(日)

- 平成18年度栃眼医総会、第51回栃木県眼科集談会 (自治医大) 一般講演：7題 特別講演： 福島県立医大眼科教授 飯田知弘先生 「加齢黄斑変性の診断と治療」 80名出席



## 会員消息

(平成17年11月～平成18年4月)

入会： C 横山真介（佐野厚生総合病院）  
B 佐々木 誠（自治医大）

転入： B 国松志保（自治医大）

東京より

転出： B 酒井淑子（獨協医大）  
B 森 樹郎（自治医大）  
C 結城賢弥（NH O 栃木病院）

埼玉へ  
東京へ  
東京へ

### 異動：①会員種別変更

A→M 多賀谷 逸子（小山市）  
C→B 和泉田 真作（獨協医大）  
C→B 石丸 慎平（ 〃 ）  
C→B 佐藤 久生（ 〃 ）  
C→B 関 寿恵（ 〃 ）  
C→B 長池 陽子（ 〃 ）  
C→B 増 渕 由佳子（ 〃 ）  
C→B 加藤 正夫（自治医大）  
C→B 柿沼 有里（ 〃 ）  
C→B 橋本 加奈（ 〃 ）  
C→B 横山 真介（佐野厚生総合病院）

### ②勤務先移転

A 伊野田 繁（那須塩原市伊野田眼科クリニック）  
B 清水 由花（ 〃 ）  
〒329-3256 那須塩原市方京1-1-8  
TEL0287-65-3787

### ③自宅住所変更

A 落合 憲一（下野市おちあい眼科）  
B 落合 万理（ 〃 ）

## 自治医科大学眼科外来診察担当者

(H18年5月現在)

	月	火	水	木	金	土
午前	茨木教授 青木 石崎 加藤 榎垣	牧野 猪木 橋本 竹澤 加藤 榎垣	小幡 本澤 竹石 崎	水流教授 青木 加藤 榎垣	国松 猪木 青木 石崎 榎垣	硝子体 茨木 竹澤
午後	緑内障 原 国松 橋本 黄斑 茨木 竹澤	角膜 水流教授 小幡 猪木	弱視斜視 牧野	ロービジョン外来 国松 (隔週)  FA/IA外来 牧野 竹澤	弱視斜視 牧野	

## 獨協医科大学眼科外来診察担当者

	月	火	水	木	金	土
午前	妹尾教授 須田 松島 寺田 澤野 佐藤 山下	千葉 橋木 高鈴 池田 小佐 山	須田 鈴木 枝 寺田 松井 小堀 野	千葉 松井 枝 高山 石丸 野堀 澤野	妹尾教授 高橋 八木 高山 池田 松井 石丸	交替制
午後	屈折矯正外来	ブドウ膜外来	周産期センター	角膜外来	白内障外来	

### ○ご投稿のお願い

会報編集委員会では、会員の先生方の原稿を募集しております。

エッセイ、旅行記、ご意見、趣味の話など楽しい原稿をお待ちしております。原稿に写真を添える事も可能です。但し、カラー写真で寄稿されてもモノクロ印刷になります。あらかじめご了承ください。

### ○原稿送り先

〒321-0202 下都賀郡壬生町おもちゃのまち1-9  
しろやま眼科 城山力一  
TEL 0282 (86) 3271  
FAX 0282 (86) 3716  
Eメール: totigani\_kouhou@ybb.ne.jp  
パソコンをお使いの方は、データで投稿下さる事を歓迎します。

### ○原稿メ切

常時受け付けております。  
但し、第37号のメ切は10月末日です。

### ○編集後記

2006年は節目の年となりました。稲葉光治会長が辞任され、宮下浩先生が会長に就任されました。

また、獨協医大では、長年ご活躍いただいた小原喜隆先生が退任され、妹尾正先生が教授にられました。妹尾先生は、獨協中・高、獨協医大と獨協一筋に歩んでいらっしゃいました。獨協を思う気持ちは人一倍とお聞きしております。獨協の発展と栃木県眼科医会に貢献して下さることを期待します。

さて、今年4月に診療報酬改正が行われ、ことにコンタクトレンズを処方した既往のある患者様の扱いが大きく変わりました。そのためレセプト提出時にお困りになる先生も多いと考え、コンタクトと保険診療について特集する予定でした。しかし、全国社保国保連絡協議会の公式な見解発表が会報編集日に間に合いませんでした。誠に残念です。

この他、亀卦川先生の素敵なエッセイ、ASC RSで松島博之先生が受賞されたという報告もございます。

お忙しい中、各種委員会報告、学術欄にご寄稿下さった会員の皆様のお蔭を持ちまして第36号栃木眼科医会報が出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

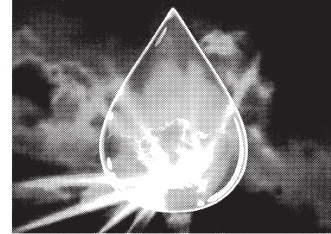
(城山)

### 編集委員

委員長 城山力一  
副委員長 千葉桂三  
委員 宮下浩  
小幡博人  
早津尚夫

### 栃木県眼科医会報 (第36号)

発行日:平成18年6月30日  
発行所:栃木県眼科医会  
〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷5-4-5  
早津眼科医院内  
発行人:栃木県眼科医会  
宮下浩  
印刷所:有限会社 安野  
〒321-0151 宇都宮市西川田町1092



TRUSOPT®

点眼用炭酸脱水酵素阻害剤 (薬価基準収載)

トルソプト® 点眼液 0.5%・1%

緑内障・高眼圧症治療剤 [塩酸ドルゾラミド点眼液]

指定医薬品、要指示医薬品:注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

【禁忌】、【効能・効果】、【用法・用量】、【使用上の注意】等詳細については、製品添付文書をご参照ください。

[資料請求先]

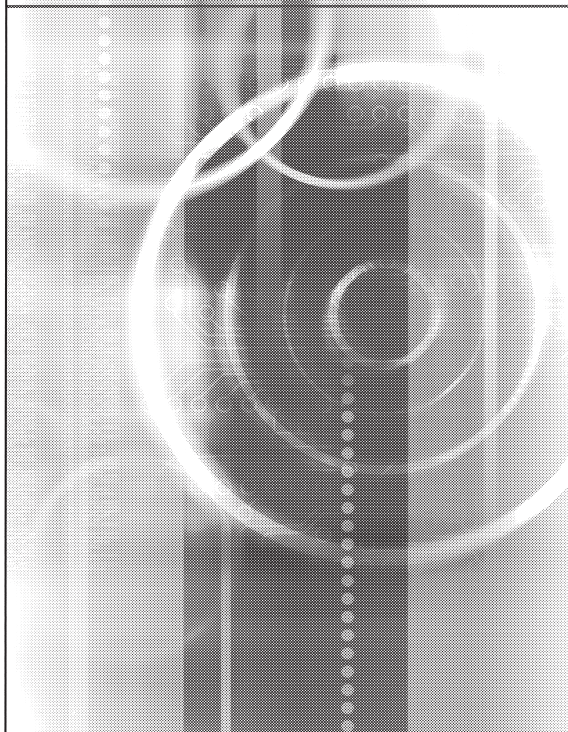
万有製薬株式会社

〒103-8416 東京都中央区日本橋本町2-2-3  
ホームページ <http://www.banyu.co.jp/>

2004年12月作成 ©Trademark of Merck & Co., Inc. Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

12-09 TRU04-J-4A05J

### 三和化学研究所の眼科疾患用製剤ラインナップ



循環障害改善剤 (薬価基準収載)  
**カルナクリン®** 錠25 / カプセル25  
CARNACULIN®  
(カリジノゲナーゼ製剤)  
●指定医薬品

炭酸脱水酵素抑制剤 (薬価基準収載)  
**ダイアモックス末**  
DIAMOX®  
日本薬局方 アセタゾラミド  
●処方せん医薬品注

炭酸脱水酵素抑制剤 (薬価基準収載)  
**ダイアモックス錠**  
DIAMOX® 250  
(アセタゾラミド錠)  
●処方せん医薬品注

炭酸脱水酵素抑制剤 (薬価基準収載)  
**注射用ダイアモックス**  
DIAMOX® PARENTERAL  
(アセタゾラミドナトリウム注射剤)  
●処方せん医薬品注

注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等  
につきましては製品添付文書をご参照ください。

製造販売元  
株式会社 三和化学研究所  
名古屋市中区東外堀町35番地 〒461-8631  
●ホームページ <http://www.skk-net.com/>

資料請求先・問い合わせ先  
コンタクトセンター  
☎0120-19-8130  
受付時間 月—金 9:00—17:00 (祝日除く)

2005年4月改訂